

## A アワチドリ ラン科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Orchis graminifolia* (Rchb.f.) Tang & F.T.Wang var. *suzukiana* Ohwi

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は単葉で根生。虫媒で風散布。地下に丸い球根をつける。花は淡紅紫色に濃い紅紫色の斑点がある。花期は6月。日陰から半日陰の岩場の岩隙などに生える。イワキンバイ群目。[E]

【分布】 本州。房総半島に固有。

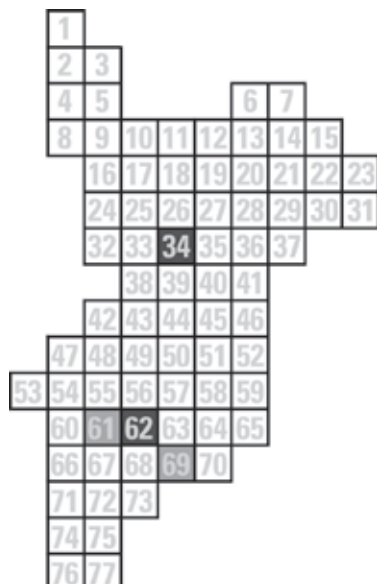
【県内の状況】 房総丘陵南部に多くの産地が知られていた。はじめウチョウランとして知られていたが、採集品をもとにウチョウランの変種として識別した。ウチョウランの地方変異の一つである。観賞用の採取のため激減し、現在確実な産地は知られていない。高価に取り引きされるために、かつては岩場にザイルを用いて根こそぎ採取していたという。現在でも県内外の山草屋において高価に販売されている。このほか本種に近似するものが鴨川市にあり、山草家の間でガンコランと呼ばれているというが、植物学的な検討は行われておらず、現地では絶滅し、山草愛好家の間で栽培品のみが残っている。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。本来の生育地は急峻な崖で、通常は人為が及ばぬ場所であるから、採取行為を停止すれば個体群が復活する可能性が高い。

【文献】 大井次三郎 1969 アワチドリ。植物研究雑誌 44(2):47 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン: 32 / 大場達之 1996 千葉県自然誌本編 1: 311-312. / 千植誌 2003

【写真】 1998. 君津市 尾崎煙雄

(大場達之／天野誠)



## A コケイラン ラン科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.

【種の特性】 中形の多年生草本。主にブナ帯の湿った夏緑樹林の下に生える。地下に球状の偽茎があり、葉は細長く1～2枚。花は5月に総状花序をなして咲き、淡黄褐色、唇弁は白色。虫媒、風散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。南千島、サハリン、朝鮮、中国東北部、ウスリー、カムチャッカ。

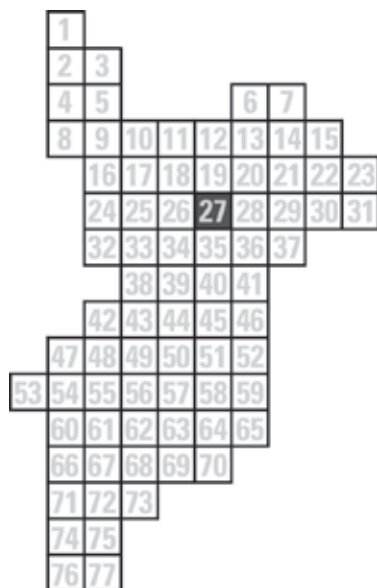
【県内の状況】 富里市内で2003年に1個体のみが発見された。種子の飛来による偶発的な分布とも考えられ、今後精査が必要である。

【保護対策】 採取を行わない。

【文献】 折目庸雄 2008 増補訂正富里の植物 / 千植誌 2003: 921, 909

【写真】 1982 長野県 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A ミズチドリ ラン科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Platanthera hologlottis* Maxim.

【種の特性】中からやや大形の多年生草本。高さ 60～80 cm。葉は単葉で 4～5 枚が互生。花は 6～7 月に咲き白色の花を密に総状につける。虫媒で風散布。湿原に生える。ヨシ群綱。[G]

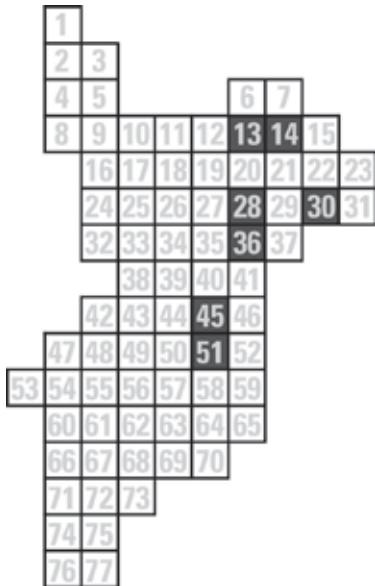
【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国東北部、東シベリア。

【県内の状況】栗山川流域と、山武市から茂原市にかけての九十九里低地、利根川沿岸の一部に分布が限られている。まとまって生え、花が目立つので、盗掘を受けやすい。

【保護対策】鑑賞などの目的などの採取をやめる。湿原の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：912,903

【写真】2000 山武市 大場達之  
(大場達之／天野誠)



## A イイヌマムカゴ ラン科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | X |
| 2023 | A |

*Platanthera iinumae* (Makino) Makino

【種の特性】小型の多年生草本。大きな葉は二枚で、長楕円形で厚い。花は 3mm で、唇弁は三裂し、距は棍棒状。虫媒で、風散布。花期は、7 月から 8 月。湿地に生育する。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州

【県内の状況】清澄山で 1932 年、1938 年 8 月、1956 年 7 月 29 日に採集された標本 (CBM BS-237807、160705、166277) がある。また君津市で、採集した記録が、千植誌 1956 と新千葉植誌 1975 (採集された年は不明) に記載されている。1994 年に調査した時には、発見できなかった。標本の新しい記録はない。

【保護対策】生育地の林縁を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 :399 / 新千植誌 75 445 / 三石山郷土環境保全地域 (1994) 107 / 千植誌 2003 913-914

【写真】1932 清澄山 標本: CBM BS-234807

(天野誠)



## A カシノキラン ラン科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Saccolabium japonicum* Makino

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は淡黄色、虫媒で風散布。照葉樹林の樹幹に着生する。[E]

【分布】本州（中南部）・本州・四国・九州・琉球。台湾。

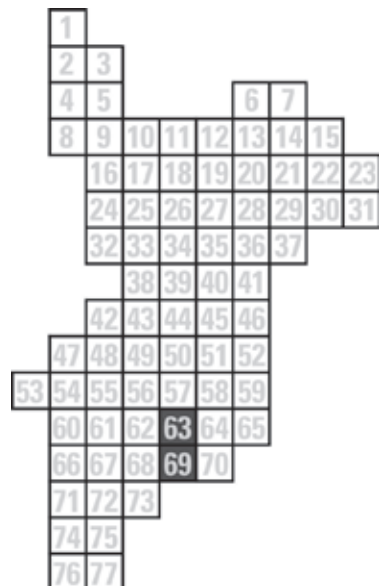
【県内の状況】清澄山に知られているが盗採のために激減した。最新の記録は清澄山での採集標本である（2016.5.7 CBM BS-371413）。

【保護対策】かつての生育環境を良好に維持する。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林 8：75 / 正宗巖敬・里見信生 1968 北陸の植物 16(4)：95 / 千植誌 1975：445. / 千植誌 2003：923,910

【写真】1998. 宮崎県 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A マツラン ラン科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Saccolabium matsuran* Makino

【種の特性】常緑多年生草本。主にモミあるいはカヤの樹幹に着生。葉は互生し質厚く、密につき暗紫色の斑点がある。花は5～6月、黄緑色で暗紫色の斑がある。虫媒で風散布。(E).

【分布】本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】かつては九十九里浜のクロマツ林に多く見られたという。清澄山と三石山で記録されているが、激減し絶滅の可能性が考えられたが、2007年に君津市で自生地が発見された（台風による落下個体）。

【保護対策】園芸目的などの採取を行わない。  
自生地の環境を良好に保全する。

【文献】千植誌 2003：923,910

【写真】1985 奈良県 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A オオハクウンラン ラン科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Vexillabium fissum* F.Maek.

【種の特性】 小型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は7月に咲き白色で唇弁が目立つ。虫媒で風散布。ハクウンランによく似ているが全体に大形である。ハクウンランと同種と考える説もある。ハクウンランはシイ・カシ帯上部からブナ帯下部のやや明るい夏緑林の中に生えるが、オオハクウンランは暗い照葉樹林あるいは竹林の下の厚い腐植層のあるところに生える。カクレミノースダジイ群目。[Ch]

【分布】 本州（伊豆諸島、房総半島、三浦半島）。

【県内の状況】 清澄山、千葉市からの報告がある。小形で目立たない植物で群れて生えることが少ないので記録されることが少ないが、実際の分布はさらに広いと考えられる。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】 新千植誌 1975：445／千植誌 2003：917, pl.907

【写真】 (左) 1985 三浦半島 大場達之／(右) 1997 千葉市 小田嶋晴子

(大場達之／天野誠)



## A ユウスゲ アスフォデラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Hemerocallis vespertina* H.Hara

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。花は夕刻に咲き出し、レモン黄色で、香りがある。虫媒で重力散布。自然なススキ草原などに生える。低地遺存ブナ帯要素。ススキ群綱。[G]

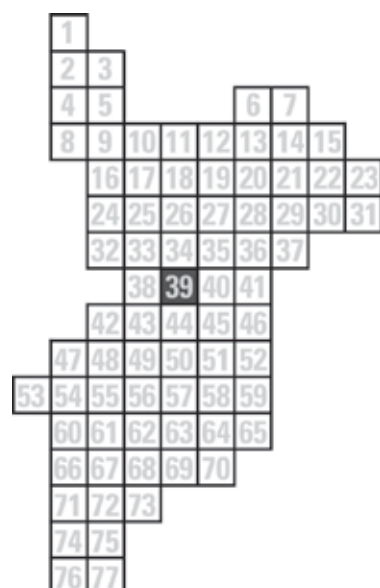
【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 1971年に館山市の道路法面の草地から報告したが、1997年の採集地の確認において発見されなかった。絶滅したものと考えられる。

【保護対策】 回復は難しい。日本のブナ帯には各地に分布し、シイ・カシ帯にも点々と知られているが、それらは場所ごとに草丈、花の色、形、香りなどに変異が見られ、房総半島の物がどのような地域変異型であったかは明らかでない。たとえ近くとはいえ、別の自生地から種子などを導入して復活を測るのは慎重な検討を要する。

【文献】 浅野貞夫 1971 房総半島にユウスゲが自生する。植物採集ニュース 58：94／千植誌 2003：685, 679

【写真】 1990.8. 京都府 大場達之 (大場達之／天野誠)



# A トダスゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Carex aequalta* Kük.

【種の特性】多年生草本。風媒で重力散布。頂小穂は線形で次の雌小穂より短い。果胞は卵円形で膨らみ、短い嘴がある。河畔の草地に生育する。

【分布】本州・九州（稀）。中国。

【県内の状況】横芝光町で確認された（2008.5.25 CBM BS-259722）。10m<sup>2</sup> 程の範囲に 30 個体前後の生育がある。生育地は夏季にはヨシ、オギなどの大型多年草が繁茂するが、年に 1 回の刈り取りまたは野焼きが行われ、スゲ類をはじめとする小型草本の生育が維持されている。同所は春にはヒキノカサ、エキサイゼリ、コヒロハハナヤスリ、ハナムグラなどの稀少種の群生がある。

【保護対策】トダスゲは日本で極めて稀な存在であり、同所的に生育するヒキノカサ、エキサイゼリなども保護対応すべき稀少種である。このような複数の種が同所的に生育する当該の箇所を保護地として管理してゆくことが望ましい。

【文献】市原・谷城（未発表）：千葉県のとダスゲ

【写真】2008.5.25  
横芝光町 谷城勝弘  
（谷城勝弘／天野誠  
追補）



# A ベンケイヤワラスゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | A |

*Carex benkei* Tak.Shimizu

【種の特性】多年生草本。ヤワラスゲ *Carex transversa* Boott やアワボスゲ *C. nipposinica* Ohwi に似るが、茎の基部はほとんど赤紫色に着色せず、雌鱗片は芒を除いた部分の長さが果胞とほぼ同長。果実の頂部にしばしば環状の付属体構造をもつ。[HH]

【分布】本州（茨城、千葉、三重、和歌山、京都、山口）、四国（香川）、九州（佐賀、大分、熊本）。中国。

【県内の状況】2010年5月に横芝光町で2個体の生育が確認された。その後河川敷での刈り払いが中断され、3年後には生育の確認が困難となった。

【保護対策】生育地の河川敷における刈り払いなどの管理を継続し、小型草本が維持される環境を創出することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 2012 千葉県初記録のベンケイヤワラスゲ。千葉生物誌。62(1) 39./ Shimizu T. 2009. *Carex benkei*, a new species of *Carex* (Cyperaceae) from Japan and China. Acta Phytotax. Geobot. 60(1): 41-46

【写真】2011.5.1 横芝光町  
谷城勝弘  
（谷城勝弘）



## A ヤマアゼスゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Carex heterolepis* Bunge

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞は脈も毛もなく、上端は急に短いくちばしとなり、口部は2歯状。風媒で水散布。[HH] ヨシ群綱。

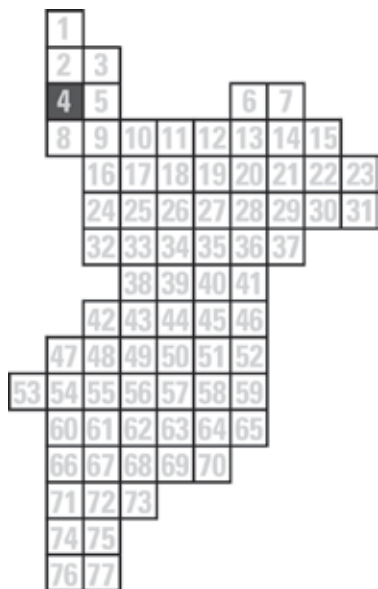
【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】野田市の確認記録がある。報告書によれば、生育地は江戸川を横切る野田線の南側のヨシ原で、ウマスゲ、アゼスゲ、エナシヒゴクサ、カンエンガヤツリなどの多くのカヤツリグサ科が見られたという。本種の生育本拠地は北関東域の山地にあり、利根川上流域に生育する個体または種子が流下して一時的に定着したものと考えられる。

【保護対策】湿地を保全することが望ましい。

【文献】土屋守 1983 千葉県野田市のヤマアゼスゲとカンエンガヤツリ、レポート日本の植物 16：149-150 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物、新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：830 / 千植写真 2003：370

【写真】1990  
群馬県 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ムジナスゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Carex lasiocarpa* Ehrh. var. *occultans* (Franch.) Kük.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅 1.5 ~ 3mm。地下走出枝が長く伸びて繁殖する。果胞に密毛がある。湿地性。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州（中北部）に稀産。千島、サハリン、朝鮮、シベリア東部。千葉県は分布の南限。

【県内の状況】1988年に多古町で発見された（1989.4.16 CBM B5-145391）。ムジナスゲは湿原中央部のカモノハシによる谷地坊主の発達した凹地を中心に点在している。2008年の調査では本種の生育が確認できなかった（谷城・市原、未発表）。定期的刈り取りの中止によって、消滅した可能性がある。

【保護対策】生育地はヨシ・スゲ類が優占し、毎年冬期にヨシの刈り取りが継続されてきた箇所である。

刈り取りによってヨシ、セイタカアワダチソウなどの高茎草本の繁茂が抑えられ、小型の草本類の生育が維持されてきた。刈り取り管理を継続するとともに複数の県内稀少種を育む多古光湿原を保護・保全の重点地域とすることが望ましい。

【文献】伊藤至 1988 高等植物分布資料（126）ムジナスゲ、植物研究雑誌 64(2) / 谷城 1990 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：167 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：250 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：855,843 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物、千葉県自然環境保全学術調査報告書、千葉県環境生活部自然保護課：7-29 / 千植写真 2005：360

【写真】1991.5.10 多古光湿原 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A アズマスゲ カヤツリグサ科

*Carex lasiolepis* Franch.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全草に毛が密生する。森林性。乾燥した夏緑林または照葉樹林の林床、特に尾根筋に見られる。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】清澄山における2点の採集品が千葉県立中央博物館に収蔵されている(1963.3.27 CBM BS-12091)。日本スゲ属植物図譜(第68図)には清澄山産のものが用いられている。神奈川県立生命の星・地球博物館には1953年4月9日採集の標本がある(KPM12553)。清澄山産のものはかつての寒冷な時代の遺存と思われる。清澄山系の継続的な調査によって2005年に再発見された。

【保護対策】清澄山系の尾根筋には生育地が残っている可能性があるため、この地域一帯の保護が望ましい。

【文献】千植誌 1958: 410

／谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物: 37-50 千植誌 2003: 845,843

【写真】2005.3.31 清澄山 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A カタスゲ カヤツリグサ科

*Carex macrandrolepis* H.Lév.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。根茎は長く匍匐し、暗褐色の繊維が著しくつく。森林性または草地性。[H]

【分布】本州(千葉県以西)・伊豆大島・九州。朝鮮南部、台湾。

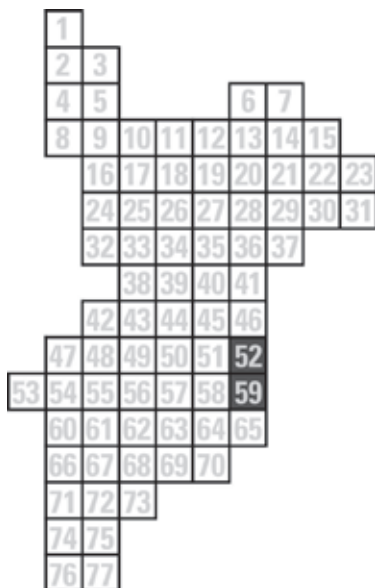
【県内の状況】1991年にいすみ市で確認された(1991.5.4 CBM BS-144498)。生育地周辺では際立って個体数が多く、林内や生垣にも生える。周辺域への広がりには少なく、生育範囲は3ha以内と推定される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城 勝弘 1992 調査会目録: 159 / 谷城勝弘 1993 調査会目録: 246 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 843,846。 / 千植写真集 2005: 360

【写真】1996.5.24 いすみ市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A ヌマクロボスゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Carex meyeriana* Kunth

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。細くて硬い種で、葉は灰緑色で幅1～1.5mm。湿地性。[HH] ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。

【分布】本州（中北部）・九州の湿原。朝鮮、中国（東北）、シベリア東部。

【県内の状況】1988年に多古町で確認された（1988.4.24 CBM BS-79643）。1990年代までは湿原でのヨシの刈り取り作業が広範囲に継続されていたが、2000年代は刈り取り範囲が急減した。そのため、ヨシ、セイタカアワダチソウなどの大型草本が繁茂し、消滅する個体が急増した。

【保護対策】多古光湿原はヨシ・スゲ類の優占する湿地で、毎年冬期にヨシの刈り取りが継続されてきた。刈り取りによってヨシの純群落への移行が抑えられ、小型の草本類は生育を維持してきた。本県における稀少種の維持のために刈り取り継続の方策を検討することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書Ⅱ：265-297／伊藤至 1988 千葉県の新記録エゾツリスゲとヌマクロボスゲ。レポート日本の植物 37：165／谷城 1990 調査会目録：113／谷城 1991 調査会目録：164／岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56／谷城 1993 調査会目録：249／谷城勝弘 1995 調査会目録：116／谷城 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50／千植誌 2003：832,822／谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29／千植写真 2005：360

【写真】1993.5.5 多古光湿原 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A ビロードスゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | B |

*Carex miyabei* Franch.

【種の特性】多年生草本。疎らに叢生して長い根茎をつける。果胞はピロード状の毛が密生し、嘴は長い。風媒で、重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】佐倉市で確認された（2008.5.11 CBM BS-259784）。生育地は鹿島川支流に位置し、セイタカアワダチソウ、オギ、アズマネササなどが繁茂する放棄湿地である。生育範囲は幅3～4m、長さ20m以上に及ぶ。

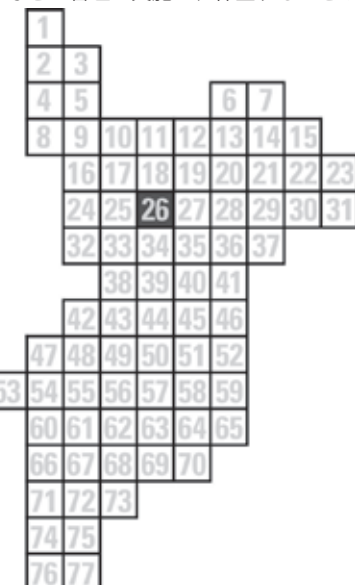
【保護対策】生育地は放置され、大型多年草の侵入が顕著である。刈り取りなどの管理を実施し、保全することが望ましい。

【文献】木村研一 2008 佐倉市においてビロードスゲを確認。千葉生物誌 58(1): 26

【写真】2008.5.11 佐倉市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



# A タシロスゲ カヤツリグサ科

*Carex sociata* Boott

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | A |

【種の特性】 多年性草本。葉は硬く暗緑色で縁はざらつき、有花茎よりも長い。基部の鞘は遷移に分解する。頂小穂は雄性、雌性の側小穂は1節に1～4個をつける。果胞は長さ約3mm、有毛で口部は2歯。果実の先端は短い円柱状となる。[H]

【分布】 九州南部（宮崎県、鹿児島県）、琉球。台湾。

【県内の状況】 2018年4月に木更津市のヒノキ林で2個体の生育が確認された。2020年に同地を調査した際は種子発芽によると思われる3株の幼個体も確認された。

【保護対策】 生育地における刈り払いなどの管理を継続し、小型草本が維持される環境を創出することが望ましい。

【文献】 谷城勝弘 2020 千葉県初産のタシロスゲを木更津市で発見。千生誌。69(2):41-42

【写真】 2018.5.10

木更津市 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



# A ムギガラガヤツリ カヤツリグサ科

*Cyperus unioides* R.Br.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】 中形の夏緑多年草。地下に横走する短い地下茎があり、秆は直立し高さ40～60cm。秆の貴部から出る葉は秆よりも短く幅3～4mm、枯葉は著しく螺旋状。花は9月。小穂は扁平で秆の上端に集まり短い柄があり、別に1～2個の長い柄の先に3～4個の小穂をつける、小穂は長さ15mm、5mmほど。小穂の鱗片は基部半ば花軸をつつみ、鱗片の着点は裸出している。花柱は先端2裂。雄蕊は3本。花糸は花後伸張して扁平となる。瘦果は黒色でやや光沢があり、低いコブ状の凹凸がある。

【分布】 本州（千葉県以西）・四国西部・九州。世界の熱帯に広く分布。栃木県からの報告もあるが、これは標本を検したところ、近似したタチガヤツリであった。

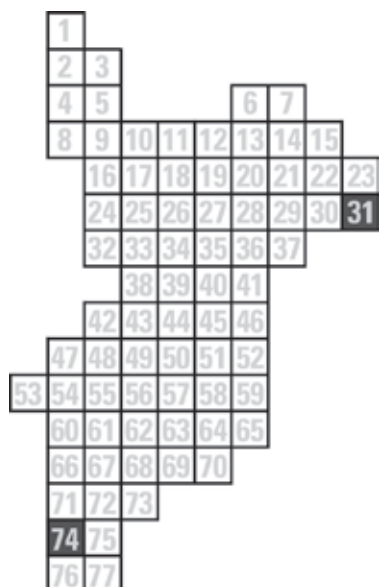
【県内の状況】 銚子市で1951年9月2日に採集され、2004年9月16日に同じ場所で再発見した。

【保護対策】 自生地の湿地を保全する。

【文献】 大場達之 2004 53年ぶりに再発見された銚子のムギガラガヤツリ。千植誌資料 20:163-164

【写真】 2004.9.16 銚子市 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A ヤリハリイ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Eleocharis congesta* D.Don var. *subvivipara* Fisch.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。穂は線状披針形で結果率は極めて低い。湿地性。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、インド。

【県内の状況】銚子市（メッシュは特定できない）での記録があるが、その後は確認されていない。稔性の低さや細長く伸びる穂の形状から判断して、雑種の可能性がある。成田市で1990年7月20日に採集された複数株のコセイタカハリイの中にヤリハリイと考えられるものが含まれていた。

【保護対策】近年急激に減少し続ける湿地を良好な状態で維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 千植誌 1975：460 / 千植誌 2003：868

【写真】1998 成田市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



## A オオヌマハリイ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Eleocharis mamillata* Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。稈は2～5 mmで中空で柔らかい。刺針は果実の2倍長。花柱脚は扁平な三角。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、済州島、中国、北欧。

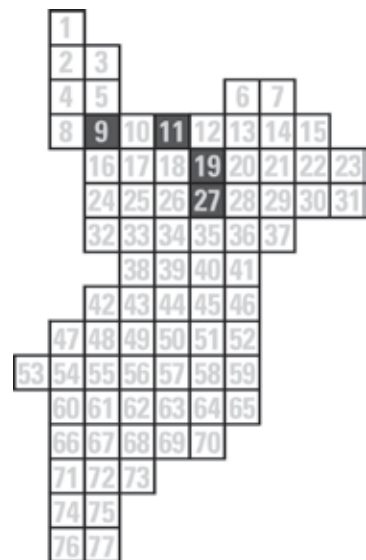
【県内の状況】県内に複数の記録があるが、コツブヌマハリイ、クロハリイ、セイタカハリイなど他のハリイ属を誤同定したものが多く含まれる。県内産唯一の標本は多古町（1997.5.24 CBM BS-125082）である。生育地では確認当時2m<sup>2</sup>程度の範囲を占めていた。毎年数度の耕運が実施され、水位は常に高く維持されており、ミズナラ、クロハリイ、オオハリイ、タタラカンガレイ、チョウセンハリイなどの生育が同所的に確認された。現地は後にヒメガマ、ヨシなどの高茎草本の侵入による遷移が進み、個体は消滅した。一部が横芝光町湿性植物園に移植されて保護、育成されている。

【保護対策】生育地の環境を維持する方策を検討することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 新千植誌 1975：460 / 千植誌 2003：867,871

【写真】1997.6.8 多古町 谷城勝弘

（谷城勝弘）



## A ハタケテンツキ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Fimbristylis stauntonii* Debeaux & Franch.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。トネテンツキに似るが、鱗片は1.0mm、果実は0.7mmと小さい。柱頭はトネテンツキのように鱗片からあまり突出しない。湿地性。アゼナ群団。[H]

【分布】本州・九州(稀)。

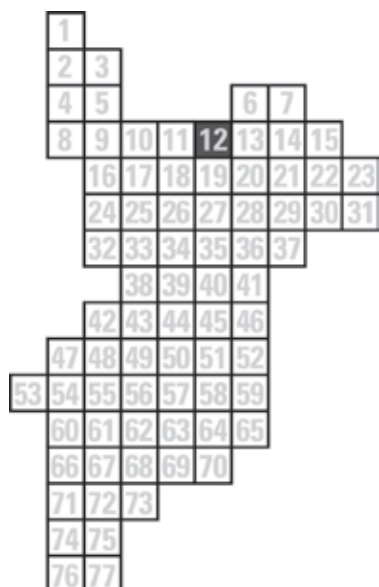
【県内の状況】成田市で採集された標本がある(1985. 9.15 CBM BS-84078)。当地は、後の遷移の進行に伴ってヨシ、セイタカアワダチソウなどの大型多年草が侵入して本種の生育に適切な環境が失われた。また2014年9月、野田市の江戸川河川敷で新たに発見された。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、表土を攪乱するなどの試験的植生発掘を試みることも有効である。湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】小崎昭則 1991 千葉県で見つけたハタケテンツキ・スゲの会報 2: 12-15 / 千植誌 2003: 861,851. / 千植写真 2005: 361 / 岩槻秀明 2016 江戸川河川敷(野田市)でハタケテンツキを記録 千植誌 66(2):13-14

【写真】2002.10 栃木県 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A クロタマガヤツリ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | X |
| 2023 | A |

*Fuirena ciliaris* (L.) Roxb.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全草毛が多く、鱗片黒緑色。湿地性。タウコギ群団。[Th]

【分布】本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド。

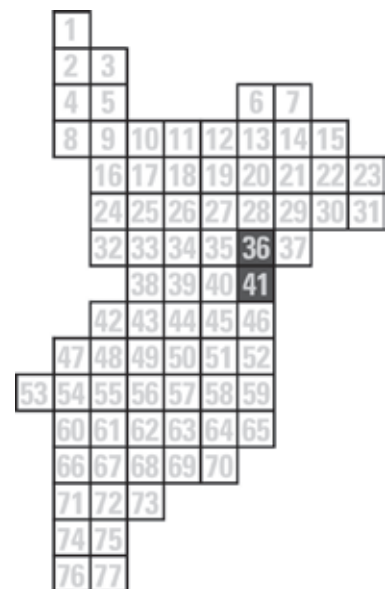
【県内の状況】東金市(1929.9.25 CBM BS-26278)、同市(1950.10.08 CBM BS-2935)、同市(1956.9.6 CBM BS-7572)、同市(1957.10.13 CBM BS-252445)、山武市(1931.10.20 CBM BS-26335)の標本が千葉県立中央博物館に収蔵されている。山武市で(2017.8.11. CBM BS-391601)で確認されている。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】千植誌 1958: 417 / 新千植誌 1975: 462. / 千植誌 2003: 860,851

【写真】1956.9.16 東金市 標本: CBM BS-7572

(谷城勝弘)



## A イトイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Rhynchospora faberi* C.B.Clarke

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果実は広倒卵形で刺針は太く、下向き粗造。風媒で付着散布。[H] ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。

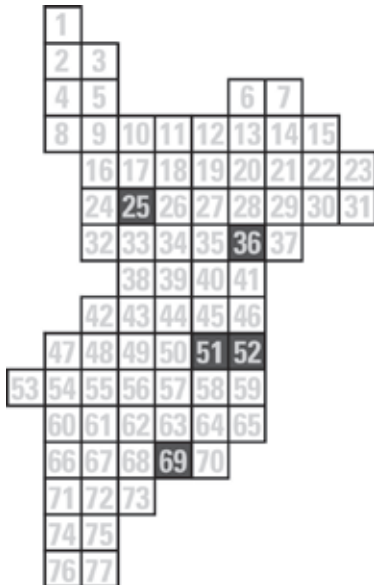
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】成東・東金食虫植物群落と長生村周辺の湿地に生育する。近似種のコイヌノハナヒゲ、ヒメイヌノハナヒゲ、イヌノハナヒゲなどと混生することが多いので、確認には精査を要する。個体数は極めて少ない。従来の記録はヒメイヌノハナヒゲを誤同定したものが多く含まれる。

【保護対策】定期的な刈り取り管理を継続し、湿地群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958：417 / 千植誌 1975：462 / 千植誌 2003：859,850

【写真】1990.8.28 長生村 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A オオイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Rhynchospora fauriei* Franch.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。イヌノハナヒゲによく似ているが、刺針はそれより長く、ほぼ平滑である。風媒で、付着散布。[HH] ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。

【分布】北海道・本州・九州。イヌノハナヒゲよりも寒冷地を分布の本拠としている。

【県内の状況】千葉県植物誌（1958）に山武市、新版千葉県植物誌（1975）に山武市、養老溪谷の記録がある。現在は長生村と山武市にのみ少数個体が確認される。古い記録は近似種の誤同定の可能性もある。

【保護対策】現生育地の環境を良好に維持し、適切な管理をすることが望ましい。旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが望ましい。

【文献】千植誌 1958：417 / 千植誌 1975：462 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物．千葉生物誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：857,850

【写真】1992 長生村 谷城勝弘

(谷城勝弘)



# A コイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Rhynchospora fujiana* Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で付着散布。小穂は5～6mm。果実は狭倒卵形で長さ2mmくらい。刺針は6本で直立、果実より少し長く平滑である。湿地性（丘陵地性）。ミミカキグサ・イヌノハナヒゲ群目。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】千植誌（1958, 2003）、新版千植誌（1975）に茂原市の記録があるが、イトイヌノハナヒゲやヒメイヌノハナヒゲにも似ているので、誤同定の可能性がある。旭市に少数個体が生育し、成東・東金食虫植物群落に多産する。

【保護対策】現生育地を管理し、生育可能な環境を維持することが望ましい。旭市の崖湿地は、町指定の保護対象とされている。

【文献】千植誌 1958：417／新千植誌 1975：462／千植誌 2003：859,850.／千植写真 2005：361

【写真】1992.9.7 旭市 谷城勝弘



(谷城勝弘)



# A コホタルイ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Schoenoplectiella komarovii* (Roshev.) J.jung et H.K.Choi

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。茎は円柱状、柱頭2。小穂は卵形、果実は1.2～1.5mmで両面形。[HH] 湿地性。

【分布】北海道・本州北部。朝鮮、中国、ウスリー。千葉県は分布の南限。

【県内の状況】1989年に成田市で3株の生育が確認されたが、放置による遷移の進行により数年後には消滅した。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましく、今後生育が確認された場所は適切に管理していくことが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録 129  
／谷城勝弘 1992 調査会目録：172.／千植誌 2003：882,874

【写真】1989.8.17 成田市 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



A シズイ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Scirpus nipponicus* Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。根茎は長い。葉は扁平。刺針 4。柱頭 2。ヨシ群綱。湿地性。[H]

【分布】北海道・四国・九州。中国、ウスリー。

【県内の状況】市川市の標本(1983.8 TNS-3516-Type)に基づいて記載された。都市化に伴う環境の変化で当時の生育地では消滅した可能性が高い。1991 年、長生村において本種の群落が発見された。長生村には休耕田が多数存在しており、シズイはこの中の 2 ヶ所の休耕田で群生している。周辺域への拡大は認められず、地域的特性の強い種と判断される。

【保護対策】現生育地の環境を良好に管理することが望ましい。

【文献】牧野富太郎 1904 植物学雑誌 18:112 / 千植誌 1958:417  
/ 新千植誌 1975:463 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生

村湿地帯の植物. 千葉  
生物誌 48(1):6-22 /  
千植誌 2003:879,874.  
/ 千植写真 2005:361

【写真】1993.8.10  
長生村 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



A ミカワシンジュガヤ カヤツリグサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Scleria mikawana* Makino

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生、葉鞘は無翼で、葉は硬い。風媒で付着散布。果実は無毛で光沢はない。湿地性。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群綱。[Th]

【分布】本州（関東以西）・九州。インド、オーストラリア。

【県内の状況】古くから茂原市・長生村の湿地に生育することが知られていたが、1990 年代に長生村で再発見された。同地は工場用地として埋め立て予定であったが、県内有数の湿地性の稀少種が複数生育していたため、保護対策が検討された。その結果、稀少種を含む表土を長生村内に移植して保護・育成している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持し管理することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:418 / 新千植誌  
1975:463 / 岩瀬・谷城 1992 千葉県長生  
村藪塚に残存する湿地群落. p.11 / 岩瀬・  
谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯  
の植物. 千葉生物誌 48(1):6-22 / 千植誌  
2003:856,849 / 千植写真 2005:361

【写真】2000.8.28 長生村 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ヒメノガリヤス イネ科

*Calamagrostis hakonensis* Franch. & Sav.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特長】多年生草本。葉身は基部で反転し、裏面の方に光沢がある。小穂は黄緑色でやや光沢があり長さ4～5mm。苞穎は同形で、護穎も苞穎と同長。護穎の背の下の方から短い芒を出す。基盤の毛は小花とほぼ同長。花期は7～10月。

【分布】北海道・本州・四国・九州。シコタン島，サハリン，中国東部。

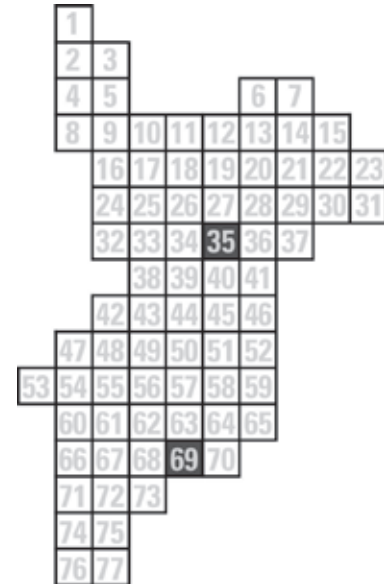
【県内の状況】県内では上総、安房の低山の岩場に稀に生育する。

【保護対策】生育環境である低山の岩山を、これ以上なくさない。

【文献】千植誌 2003：741, 734

【写真】1966.10.16 山武市 標本：CBM BS-13449

(木村陽子)



## A アオウシノケグサ イネ科

*Festuca ovina* L. var. *coreana* (Maxim.) Andres

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特長】小型の多年生草本。根茎は短く、茎は叢生する。葉身はやや硬く、白味を帯びる。小穂は5mmから7mmで、護穎には直立する芒がある。風媒で、重力散布。花期は、6月～8月。日当たりのよい草地に生育する。[H]

【分布】本州・九州

【県内の状況】千葉市で、1980年6月1日に採集された標本(CBM BS-346168)と鴨川市で、1987年6月11日に採集された標本(CBM BS-386778)と印西市で2000年5月6日に採集された標本(CBM BS-238378)がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】増補日本イネ科植物図譜(1993) p.108-109

【写真】2000.5.6 印西市 標本：CBM BS-238278

(天野誠)



## A タチネズミガヤ イネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Muhlenbergia hakonensis* (Hack.) Makino

【種の特性】 小型の多年生草本。丈夫な根茎があり、茎は単生する。葉身は線形で、斜上する。花序は頂生する。花序の枝は軸に密着する。小穂の護穎に長い芒がある。風媒で、重力散布。花期は、8月～9月。常緑樹林の林床に生育する。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮（済州島）。

【県内の状況】 君津市で、1989年11月8日に採集された標本（CBM BS-242531）と君津市で、2011年9月4日に採集された標本（CBM BS-316681）がある。東京大学千葉演習林の標本庫には、君津市で1929年10月に採集された標本、同市で1930年8月4日に採集された標本と同市で1970年9月24日に採集された標本が収蔵されている。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:42 / 新千植誌 1975:469 / 千植誌 2003:748 / 演習林（東大）2017 10

【写真】 2011.9.14 君津市 標本：CBM BS-316681

（天野誠）



## A キダチノネズミガヤ イネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Muhlenbergia ramosa* (Hack.) Makino

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で風散布。長い根茎を持つ。良く似たネズミガヤは極く短い根茎しかない。温帯林に生育する。花期は8～10月。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。中国中部。西日本には比較的に見られるが、分布東端の茨城、千葉、埼玉、神奈川県では、稀な植物である。

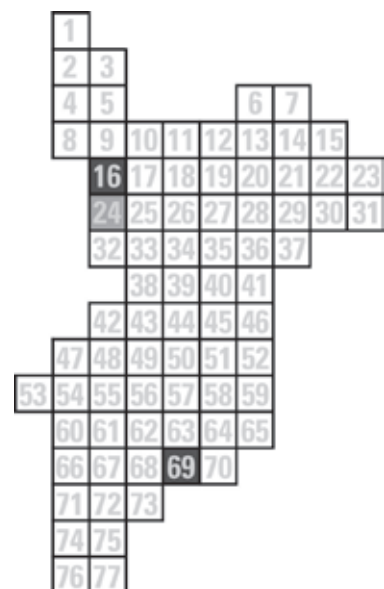
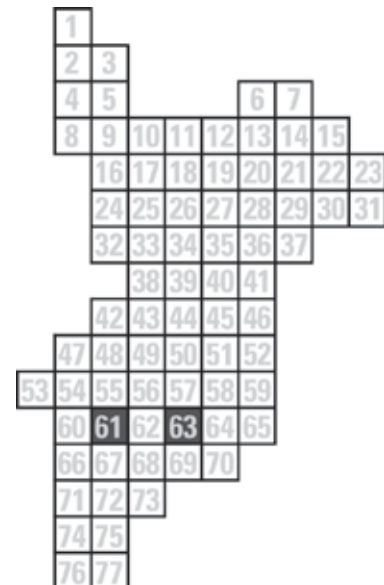
【県内の状況】 清澄山、松戸市で1930年頃の記録があり、標本では市川市（1929年 東京大学総合研究博物館）、松戸市（1986.04.23 神奈川県立生命の星・地球博物館）があるが、ネズミガヤと誤認され見逃されている可能性がある。

【保護対策】 山林の生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 本田正次 1933 松戸附近植物目録・千葉高等園藝学校學術報告 第2号：61-92 / 千植誌 1958：424. / 千植誌 2003：740,748

【写真】 1943.8.28 愛知県 標本：CBM BS-238306

（木村陽子）



## A エダウチチヂミザサ イネ科

*Oplismenus composius* (L.) P.Beauv.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | A |

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 30～60cm、下部は這う。葉の長さは、4 から 10cm で、ケチヂミザサより大きい。長楕円状披針形で、先端は急に尖る。下部の小花序は伸びて枝状になる。花序の軸にほとんど毛がない。風媒で、動物外散布。林縁に生育する。[H]

【分布】 伊豆七島・小笠原・四国・九州・琉球。中国、南アジア。

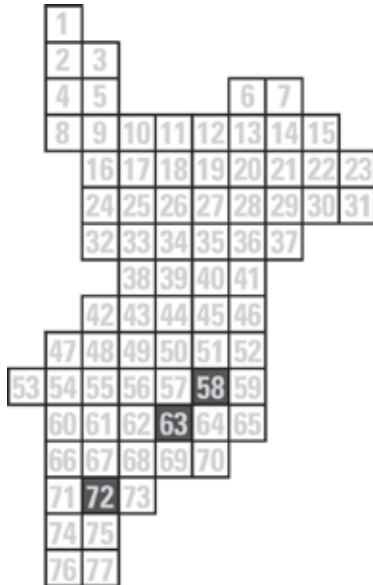
【県内の状況】 君津市で 2012 年 9 月 27 日に採集された標本（CBM BS-330793）と大多喜町で 2011 年 11 月 4 日に採集された標本（CBM BS-316443）と南房総市で 1997 年 9 月 25 日に採集された標本（CBM BS-276173）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 改訂新版日本の野生植物 2 2016 90

【写真】 2011.11.4 大多喜町 標本：CBM BS-316443

（天野誠）



## A ヨコハマダケ イネ科

*Pleioblastus matsunoi* Nakai

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | C |
| 2023 | A |

【種の特性】 大型の竹笹類。高さ 2～3 m。枝を分枝する。稈鞘は無毛。葉鞘は上向きの長い粗毛が散在する。葉身は狭披針形。葉の両面は無毛。風媒で、重力散布。海岸付近の林縁に生育する。[N]

【分布】 本州（関東南部）。

【県内の状況】 主に安房地方の海岸付近に分布する。南房総市で 1935 年 7 月 14 日に採集された標本（CBM BS-177711）と館山市で 1935 年の 9 月 8 日に採集された標本（CBM BS-206833）と鴨川市で 1948 年 7 月 11 日に採集された標本（CBM BS-376576）、富津市で 1989 年 8 月 16 日に採集された標本（CBM BS-151113）

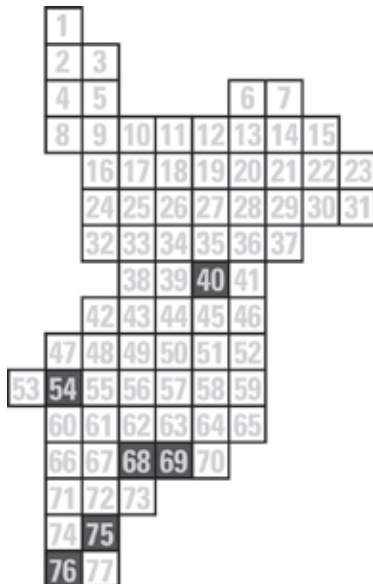
などがある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:429 / 新千植誌 1975:474 / 千植誌 2013:808 / 日本タケ科植物図鑑 1996 173

【写真】 1956.6.24 南房総市 標本：CBM BS-178201

（天野誠）



## A イタチガヤ イネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Pogonatherum crinitum* (Thunb.) Kunth

【種の特性】小型の多年生草本。茎は叢生する。葉身は線形で、斜上する。花序は頂生する。小穂の第二包穎と護穎に長い芒がある。風媒で、重力散布。花期は、8月～11月。崖下の湿った所に生育する。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国（南部）、インド、インドネシア。

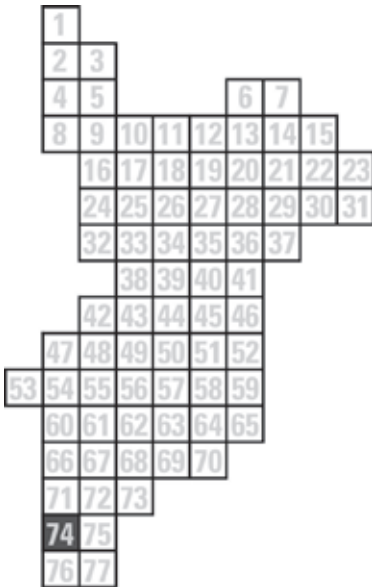
【県内の状況】館山市で、2008年11月1日に採集された標本（CBM BS-291057）と館山市で、2009年1月13日に採集された標本（CBM BS-386778）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】増補日本イネ科植物図譜（1993）p.694-695

【写真】2008.11.5 館山市 標本：CBM BS-291057

（天野誠）



## A コガシアズマザサ イネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

*Sasaella kogasensis* (Nakai) Nakai ex Koidz.

【種の特性】大型の竹笹類。高さ1～2m。上方で枝を分枝する、枝は1節から1本出る。稈鞘は長毛と下向きの細毛が密生する。葉鞘も同様。葉身は長楕円状披針形で、先端は急に尖る。葉の下面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。林縁に密生する。[N]

【分布】本州（関東・東北）。

【県内の状況】佐倉市で2004年4月11日に採集された標本（CBM BS-267438）の他、同市の1メッシュで採集された標本があり、その他に2メッシュで記録されている。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千葉県植物誌 2003 807 / 日本タケ科植物図鑑 1996 158

【写真】1993.5.26 佐倉市 標本：CBM BS-254315

（天野誠）



## A ヤマトミクリ ガマ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Sparganium fallax* Graebn.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序の分岐はなく、雌性頭花の全部または一部は腋上性である。果実は紡錘形で中央がくびれる。湿地性または浅い水中に生える。ヨシ群綱。[HH]

【分布】本州・四国・九州。アジア東部。

【県内の状況】芝山町（1932.5.19 CBM BS-610）の標本があるが、生育地の現状は不明である。かつて柏市の公園内のため池に多数個体が生育していたとする情報がある。1995年に八千代市で確認された（CBM BS-117957）群落は現在県内で唯一生育確認

される所である。群落の維持のため、水路の管理を目的とした刈り取りや除去から回避するよう周辺住民の理解と協力を得ることが必要である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岩瀬徹 1989 千葉県のミクリ属について . 千生誌 39(1) : 30-31 / 大野 1996 調査会目録 : 4 / 千植誌 2003 : 814,801 / 千植物写真集 2005 : 359

【写真】1999.6.13 八千代市 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ナガエミクリ ガマ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

*Sparganium japonicum* Rothert

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序は分岐せず、最下の雌性頭花に柄がある。果実は細長く、先端は嘴状に尖る。湿地性または浅い水中に生える。[HH]

【分布】日本全国。アジア極東地域。

【県内の状況】古くは東金市の標本（1956.7.22 CBM BS-7366）があるが、現在は同地で確認できない。1999年に富里市（CBM BS-164395）で、次いで2001年に香取市で群落を確認している。現在確認される県内の生育地は前記の2ヶ所だけである。

【保護対策】生育可能な環境を維持するとともに、河川管理に伴う清掃等の目的によって除去することのないように特別な保護策をとることが望ましい。

【文献】岩瀬徹 1989 千葉県のミクリ属について . 千生誌 39(1) : 30-31 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 : 80 / 千植誌 2003 : 814,801 / 千植写真集 2005 : 359

【写真】2001.8.7 富里市 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



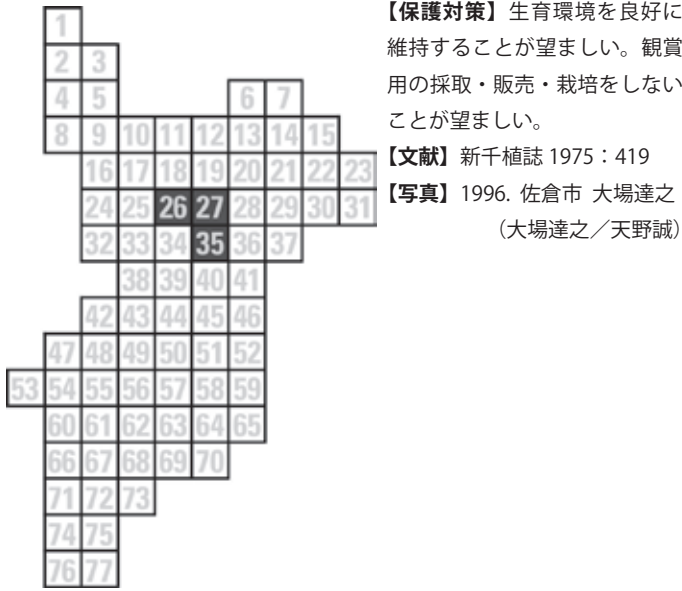
|                                      |      |   |
|--------------------------------------|------|---|
| A ヒメミクリ ガマ科                          | 2009 | A |
|                                      | 2017 | A |
|                                      | 2023 | A |
| <i>Sparganium subglobosum</i> Morong |      |   |

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅3～7mm。果実は倒卵形で小柄がない。湿地性。ヨシ群綱。[HH]  
【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。東アジア、インド、オーストラリア、ニュージーランド。  
【県内の状況】 山武市、長生村、成田市、匝瑳市などに生育が知られている。長生村には1990年代まで多数個体が生育する所があったが工場用地造成に伴う盛土によって消滅した。この個体の一部は長生村内に移植、育成されている。成田市の個体は遷移が進行してヨシが繁茂し、消滅した。匝瑳市の休耕田ではその後の耕転で消滅した。山武市の現状は不明である。  
【保護対策】 生育地の環境を良好に維持し、刈り取りなどの管理によって大型草本群落への遷移の進行を阻止することが望ましい。  
【文献】 千植誌 1958：433／新千植誌 1975：479／角野康郎（1994）日本水草図鑑：8／谷城 1995 調査会目録：122／千植誌 2003：814,801



|                                                    |      |   |
|----------------------------------------------------|------|---|
| A ヤマブキシソウ ケシ科                                      | 2009 | B |
|                                                    | 2017 | A |
|                                                    | 2023 | A |
| <i>Hylomecon japonica</i> (Thunb.) Prantl & Kündig |      |   |

【種の特性】 中形の多年生草本。葉は3出複葉で互生。4月に大きな4弁で黄色の花を咲かせる。ケヤキ林あるいは竹林などの腐植の多い湿った林の柔らかい土壌に群生する。虫媒で風散布。ブナ群綱。[G]  
【分布】 本州・四国・九州。  
【県内の状況】 佐倉市と山武市（町内の位置は特定できないので分布図には表示していない）などに知られる。開花時には極めて目立つので観賞用に採取される危険が大きい。



## A キクザキイチゲ キンポウゲ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Anemone pseudoaltaica* H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は3出複葉で輪生。虫媒で重力散布。高さ15cmほど。地下に横に這う地下茎がある。花は早春に開花し、地上部は夏までに枯れる。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】北海道、本州。

【県内の状況】成田市、山武市などの記録があるが稀である。近年の確認はない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】岩瀬徹・小滝一夫・篠崎秀次 1996 千葉市の種子植物。千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書：275-378 / 千植誌 2003：188, 205

【写真】1988 石川県 大場達之  
(大場達之／谷城勝弘 追補)



## A トウゴクサバノオ キンポウゲ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W.T.Wang & P.K.Hisao

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で対生。虫媒で重力散布。湿った夏緑林の林床に生え、主としてブナ帯に見られる。ブナ群網。低地遺存ブナ帯要素。[H]

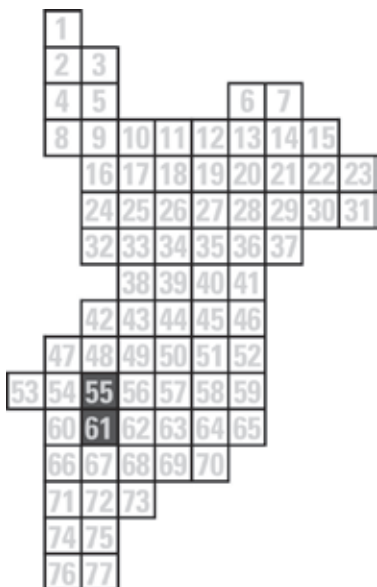
【分布】本州（東南北部）・四国・九州。

【県内の状況】かつて君津市で採集された標本が東京大学研究資料博物館にあり、1994年に君津市で採集されている。1998年に君津市で再確認している。清澄山で目撃したことがあるが1998年に確認に赴いたが発見できなかった。草食獣により被害され消滅した可能性がある。

【保護対策】生育地は極めて狭く失われる可能性が高い。生育地を保護することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：423 / 千植誌 2003：187, 195

【写真】1998. 君津市 大場達之  
(大場達之／谷城勝弘 追補)



A オキナグサ キンボウゲ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold & J.Presl

【種の特性】 多年生草本。葉は複3出複葉で互生。虫媒で風散布。乾き気味のシバ草地、砂礫の多い河原などに生える。ススキ群綱。[G]

【分布】 本州・四国・九州。済州島。

【県内の状況】 かつて放牧牧場の多い時代には広く見られ珍しいものではなかったが、半自然草地の管理が疎かになってから急速に減少し、現在確認できる産地は印西市など極めて限られている。目立つ草なので記録・採集されることが多く、標本も多く残っている。

【保護対策】 人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：423／引田園子 2000 オキナグサの自生地とその受難。千植資料 16：123.／小野靖郎 2006 オキナグサとの出会い 千植資料 16：124／千植誌 2003：188,196

【写真】 印西市 大場達之

(大場達之／谷城勝弘 追補)



A ツメレンゲ ベンケイソウ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger

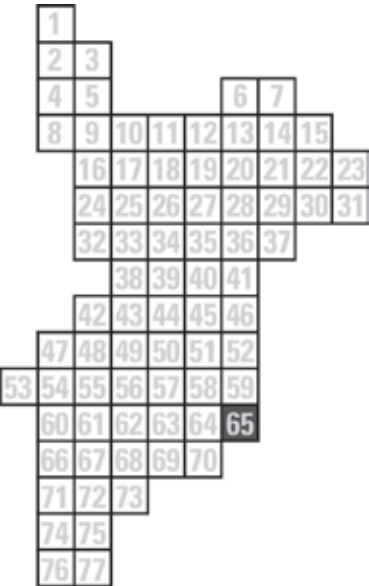
【種の特性】 通常、直径5 cm程度のロゼットを形成する常緑の一回稔性多年生草本。海岸や山地の岩場などに生える。実見した千葉県の個体は際だって小さい。開花株は未見。以下は他産地の標本から記載である。太い主根から細い根を出す。葉は披針形で、先は刺状になる、らせん葉序。葉は全縁で、無毛、多肉。花は秋に咲く。花は密な総状花序につく。花柄は約1 mm。花は5数性で、萼片は狭卵形で、鋭頭。花弁は、倒披針形。白色で、長さ約4 mm。雄しべの数は10本、葯の色は黄色。離心心皮は5つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で、風散布。エゾオオバコーウシノケサ群綱。[H]

【分布】 本州。

【県内の状況】 御宿町で記録されている。太平洋岸の分布の東限。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【写真】 2007.10.2  
山梨県 石川和宏  
(大場達之／  
天野 誠 追補)



## A ハマビシ ハマビシ科

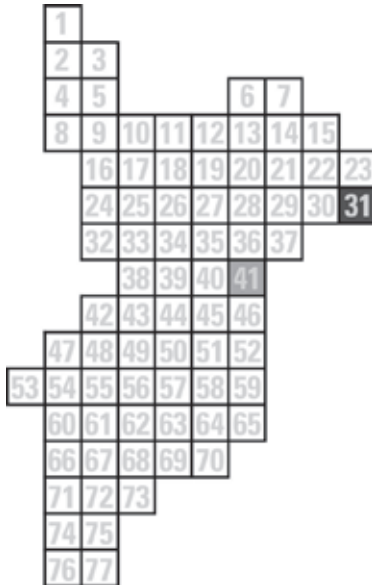
*Tribulus terrestris* L.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】 小形の一年生草本。葉は羽状複葉で互生。乾燥した熱帯に広く分布する雑草で、亜熱帯や温帯南部などでも、夏の気温の高くなる環境にも点々と分布する。路傍あるいは畑に生える。日本のものは偶発的に海岸の砂地に生えたものであろう。虫媒で付着散布。オヒシバ群団。[Th]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。世界の熱帯と温帯。

【県内の状況】 銚子市でわずかに保全されているほか、南房総市の標本もあるがメッシュ不明である。



【保護対策】 海岸の開けた明るい砂地で保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 315, 321

【写真】 1951.7.24 南房総市 標本 : CBM BS-168131

(大場達之／天野誠)



## A ミヤコオトギリ オトギリソウ科

*Hypericum kinashianum* Koidz.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】 小型の多年生草本。茎は円柱形。葉身には黒点がある。果実の表面の模様正方形から六角形。虫媒で、風散布。花期は、7月～8月。山の谷間に生育する。[H]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 富津市で、1992年10月25日に採集された標本（CBM BS-160460）と鴨川市で、1992年10月31日に採集された標本（CBM BS-153795）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 日本の野生植物3. (2016) 245-246

【写真】 1992.10.25 富津市 標本 : CBM BS-160460  
(天野誠)



## A マツバニンジン アマ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Linum stelleroides* Planch.

【種の特性】直立性の細く硬い一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ススキ草原あるいはその周辺の裸地などに生える。最近では帰化のキバナノマツバニンジンが多い。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

【県内の状況】かつて半自然のススキ草原が多かった頃には各地で記録されていたが、普通なものではなかった。近年の記録はなく、絶滅した可能性が高い。最も新しい記録は（1984 柏市 CBM BS-82867）である。また船橋市の埋め立て地で採集されている（平塚市博物館蔵）が、これはマツバニンジン近似の外来品である可能性がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：404-405  
／千植誌 2003：316, 322

【写真】1984.8.14 柏市 標本：CBM BS-82867

（天野 誠）



## A ナガバノスミレサイシン スミレ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Viola bisetii* Maxim.

【種の特性】小型の多年生草本。地下に横走する太い地下茎がある。葉は単葉で根生。葉の先は鋭く尖り、基部は心形である。虫媒で虫散布。[G]

【分布】本州（関東以西）、四国。太平洋側に分布域をもつ。

【県内の状況】関東地方の低山地には普通であるが、県内では嶺岡山地のみに知られている。最も新しいデータは1955年であったが、2005年と2006年に嶺岡山地で採集された。千葉県のは全体小型で、花茎は葉よりも著しく高く伸びる。変種レベルで区別されるべきものと考えられる。2019年木更津市で採集されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：378, 385

【写真】鴨川市 福田洋

（大場達之／谷城  
勝弘 追補）



## A エイザンスミレ スミレ科

*Viola eizanensis* (Makino) Makino

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | A |

【種の特性】小型の夏緑性多年生草本。高さ夏期、20cm程度。葉は全て根生する。花時の葉は細裂するが、夏期は3裂または5裂し、粗い鋸歯がある。花は4月ころ咲き、白または淡紅色。果実は卵形で、3裂し茶色の種子を飛ばす。夏期には、閉鎖花をつける。虫媒で自動散布及びアリ散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。

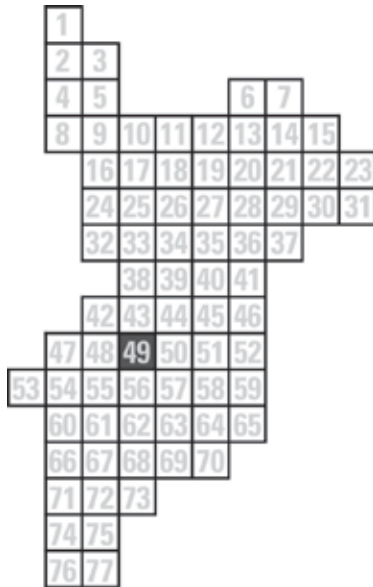
【県内の状況】千葉市で文献記録があり、袖ヶ浦市で1998年に標本が採集されている。再び2013年6月17日、袖ヶ浦市で発見された。北向きのスギや常緑樹の混じる雑木林と農道間の緩い斜面に生育する。周辺の都県の山地にかなり広く分布するが県内では極めて稀。

【保護対策】自生地を現在の管理の状況で維持する。除草剤を撒かれないように土地所有者に注意喚起が必要。

【文献】千植誌 2003：378, 385

【写真】2023.3.31 秩父市 木村陽子

(天野誠)



## A ナガバタチツボスミレ スミレ科

*Viola ovato-oblonga* (Miq.) Makino

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】小型の多年生草本。高さ10～30cm。根生葉は卵形だが、茎葉は、狭卵形になる。茎葉の長さは25～30mm、托葉は細く切れ込む。虫媒で、自力散布。花期は、3月～4月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

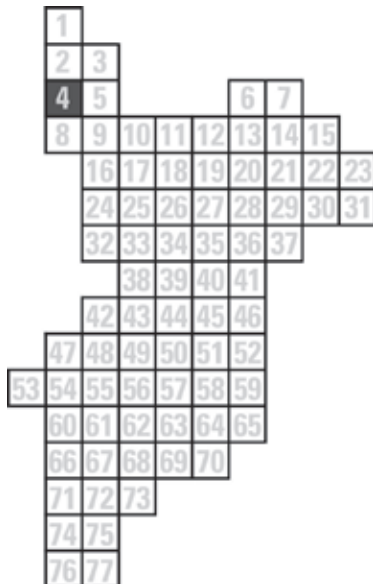
【分布】本州・四国・九州。朝鮮（南部）。

【県内の状況】野田市で2012年4月30日に採集された標本（CBM BS-357602）と同市で2013年3月26日に採集された標本（CBM BS-355987）と同市で2015年4月15日に採集された標本（CBM BS-364566）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌資料 2013 274-276 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017 226

【写真】2015.4.15 野田市 標本：CBM BS-364566  
(天野誠)



## A タチスミレ スミレ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Viola raddeana* Regel

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。大形のすみれで、高さ 50cm 以上になる。花は 6 月に咲く。河川氾濫源のオギ群落の中に生える。オギーヨシ群団。[H]

【分布】 本州（関東、近畿）・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】 利根川水系の各地に知られ、市川市、手賀沼、我孫子市、香取市などからの記録がある。1985 年に我孫子市での記録が最新のデータである。

【保護対策】 河川氾濫原の自然植生を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：377, 382

【写真】 1998. 栃木県 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A マキノスミレ スミレ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Viola violacea* Makino var. *makinoi* (H.Boissieu) Hiyama ex F.Maek.

【種の特性】 多年生草本。シハイスミレに似るが、ほぼ垂直に葉を立て、表面は濃緑色で光沢があり裏面の紫色は淡い。花はシハイスミレよりも濃い紅紫色。

【分布】 本州（青森県～兵庫県）。

【県内の状況】 葉身は日本海側の典型的なものに比べ、幅がやや広い。市原市で発見された（2002.4.6 CBM BS-183642）。生育地は標高約 70m の雑木林で、100 株ほどが群生する所と他に 2 箇所ほど少数の個体が生育している。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：380, 384

【写真】

2003.4.9 市原市

福田洋

(谷城勝弘)



## A ヒカゲスミレ スミレ科

*Viola yezoensis* Maxim.

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】多型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

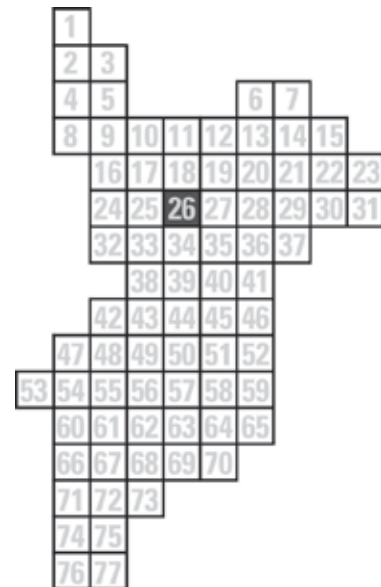
【県内の状況】八千代市で1998年4月8日に標本(CBM BS-148680)が採集されている。佐倉市で報告されている。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 379, 385

【写真】1993.4.12 八千代市 標本 : CBM BS-148680

(谷城勝弘)



## A ヒロハクサフジ マメ科

*Vicia japonica* A.Gray

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | X |
| 2023 | A |

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生し、葉軸の先端は巻ひげになる。虫媒で重力散布。花は紅紫色、終わり頃には青みがかる。植物体上に毛が多い。砂浜の後背地に生える。[H]

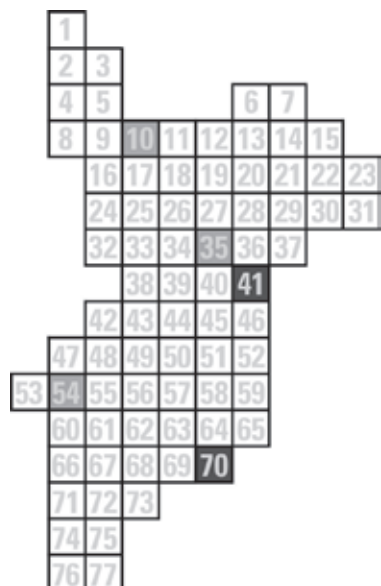
【分布】北海道・本州（近畿以東）・南千島。サハリン、朝鮮。

【県内の状況】1951年6月24日に富津市で標本が採集(CBM BS-3281)されて以来、ほかに採集された標本はなく、生育の確認もされていない。本種は、県内では、これまでしばしば同属のノハラクサフジと誤認されてきた。両者は花柱の形態の違いで容易に識別できる。ヒロハクサフジでは花柱が背腹方向に扁平であるが、ノハラクサフジでは円柱形である。富津岬の対岸の三浦半島観音崎には現在もヒロハクサフジが見られる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】遠藤泰彦・大橋広好 1994 植物研究雑誌 69 : 379-382 / 千植誌 2003 : 309, 317

【写真】1998 神奈川県 大場達之 (遠藤泰彦/大場達之 追補)



## A ヒナノカンザシ ヒメハギ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Salomonina oblongifolia* DC.

【種の特性】小形の一年生草本。茎は直立し、少数の枝を鋭角に出す。花は8～9月。穂状に紫色の小さな花を多くつける。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。[Th] ホシクサーコイヌノハナヒゲ群団。

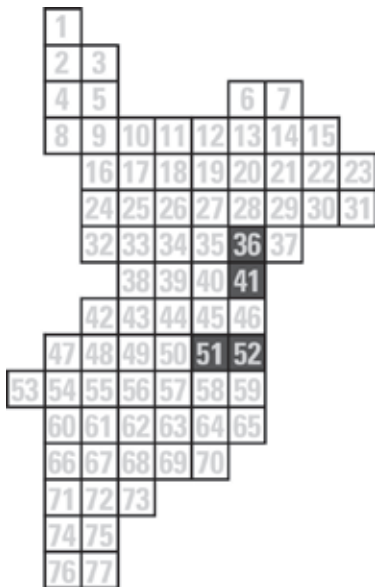
【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】湿原中の小裸地、あるいは草原の周縁の一年草群落などに生え九十九里低地に知られる。

【保護対策】自然～半自然湿原の保全。

【文献】千植誌 2003：344, 337

【写真】1991.8.16 長生村 谷城勝弘  
(大場達之／天野誠)



## A カラハナソウ アサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. & Sav.

【種の特性】大型のつる性多年生草本。高さは2m以上になる。茎には、下向きの棘毛があり、他の植物を這い上る。葉は卵円形で、心形。雌雄異株。雌花序は、楕円球で、長さ2～3cm。種子は2.5～3mmで、大きい。風媒で、重力散布。花期は、8月から9月。山地の林縁に生育する。[H]

【分布】北海道・本州。千島列島（南部）、中国（北部）。

【県内の状況】柏市で1990年10月2日に採集された標本（CBM BS-138919）と八千代市で1999年11月5日に採集された標本（CBM BS-168475）と野田市で1997年9月13日に採集された標本（CBM BS-140636）がある。遺存的分布で、個体数も少ないので、集団の存続が危ぶまれる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌資料 2000 110／千植誌 2003 116

【写真】2016.9.26 野田市 岩槻秀明

(天野誠)



## A オオクマヤナギ クロウメモドキ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | X |
| 2023 | A |

*Berchemia magna* (Makino) Koidz.

【種の特性】 つる生の夏緑低木～亜高木。葉は互生、長さ4～10 cm、乾くと黄色くなる。

花は7～8月。円錐花序で花は小さく淡黄緑色。果実は赤から黒色に熟す。

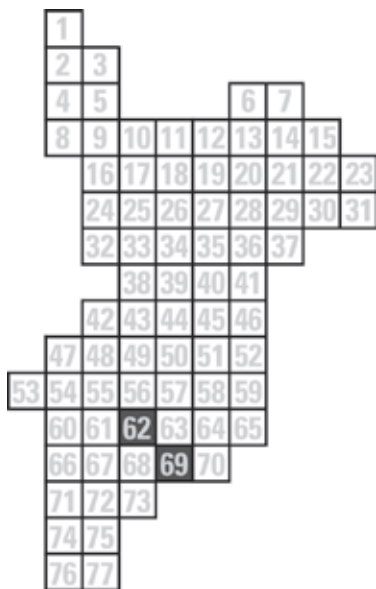
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】 清澄山からのみ報告があり、千葉県立中央博物館には君津市（CBM BS-9347）と清澄山（CBM BS-9561）の標本があるが、この標本は1958年9月7日の同一日に採集されもので同一箇所と推定される。

【保護対策】 林縁低木の草食獣による食害を防ぐ。

【文献】 千植誌 1958 : 355 / 千植誌 2003 : 356, 360

【写真】 1958.9.7 君津市 標本 : CBM BS-9347  
(大場達之/天野誠)



## A ヤマブキショウマ バラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Aruncus dioicus* (Walter) Fernald var. *tenuifolius* (Nakai) H.Hara

【種の特性】 雌雄異株の多年生草本。高さは100 cm 近くなる。花は6～8月。

葉は2回3出複葉で互生し、根出葉もある。虫媒で風散布。オニシモツケオオイタドリ群団。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮（北部）、中国。

【県内の状況】 県内では稀で、長南町（1975 CBM BS-143453）と鋸南町（200210.4 CBM BS-196525）などで標本が採集されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 269, 266

【写真】 1975 長柄町 標本 : CBM BS-143453

(御巫由紀)



## A エドヒガン バラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | D |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Cerasus spachiana* Lavallée ex H.Otto f. *ascendens* (Makino) H.Ohba

【種の特性】夏緑性の高木。樹皮は灰褐色で不規則に縦に裂ける。葉は狭倒卵形～楕円形で側脈が多い。花柱に開出毛が顕著。花は3月下旬。{MM}

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】県内では自生と思われる標本が数点。船橋市(2003.6.8 CBM BS-202398)、富津市(1999.12.10 CBM BS-186041)、市原市(1992.5.29 CBM BS-54982)等で採集されている。

【保護対策】自生と考えられる個体を保存する。

【文献】千植誌 2003:288, 283

【写真】2006.3.25 船橋市 木村陽子

(御巫由紀)



## A オオダイコンソウ バラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Geum aleppicum* Jacq.

【種の特性】山地の明るい草原を好む中型の多年生草本。高さは60～100 cm。

花は7～9月。茎葉は3出葉、根生葉は羽状複葉。虫媒で付着散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮(北部)、中国。

【県内の状況】県内では稀で、市原市(1989.7.31 CBM BS-86006)、佐倉市(2004.7.31 CBM BS-207852)の標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】長田潔 1958 千生誌/千植誌 2003: 275, 279

【写真】1954.8.15 北海道 標本:CBM BS-105090

(御巫由紀)



## A ヤマナシ バラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Pyrus pyrifolia* (Burm.f.) Nakai

【種の特性】落葉高木。高さ5～10m。葉は卵形から狭卵形、縁に鋭鋸歯がある。花は、白色で花柱は5本。果実に萼片は残らない。虫媒で、動物散布。林に生育する。{MM}

【分布】本州、四国、九州。

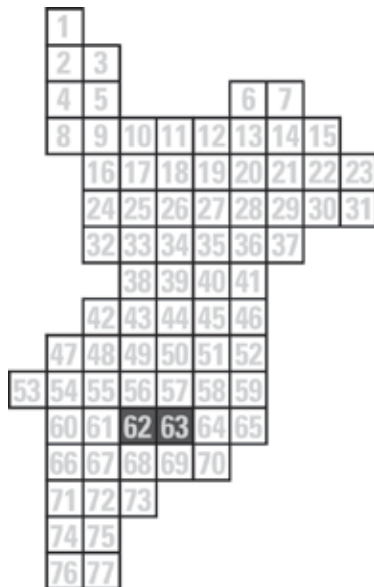
【県内の状況】多古町で1987年11月15日に採集された標本（CBM BS-189096）と、大多喜町で2009年8月18日に採集された標本（CBM BS-282481）と君津市で2007年9月6日に採集された標本（CBM BS-267974）がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】改訂新版日本の野生植物 3 2016 81

【写真】2009.8.18 大多喜町 標本：CBM BS-282481

(天野誠)



## A バライチゴ バラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

*Rubus illecebrosus* Focke

【種の特性】夏緑性の低木。葉は3～7小葉からなる羽状複葉。花は白色、6～7月。

果実は球形ないし広楕円形で紅熟する。虫媒で食散布。[Ch]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州

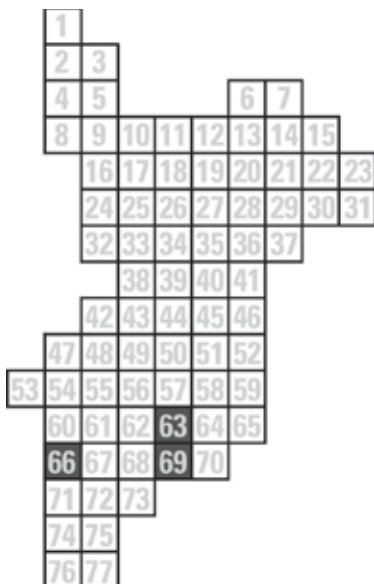
【県内の状況】県内では稀で、南房総市（1989）の標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：271, 267

【写真】1951.6.26 静岡県 標本：CBM BS-152617

(御巫由紀)



## A ナンキンナナカマド バラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

*Sorbus gracilis* (Siebold & Zucc.) C.Koch

【種の特性】夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。花弁は淡黄褐色で早落性。乾きやすい尾根筋などに生える。虫媒で重力散布。[M]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国、マレーシア。

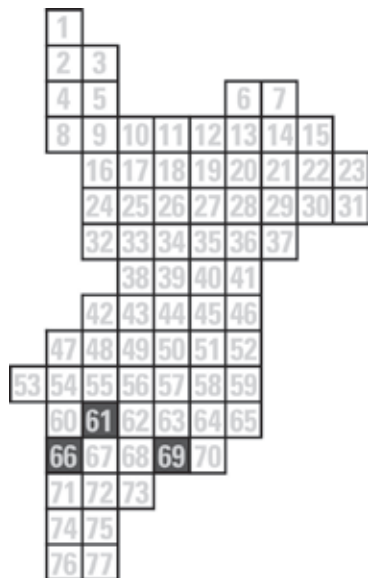
【県内の状況】報告が少なく、標本は清澄山（1929.8.5 CBM BS-27190）、鋸山（1997.10.25 CBM BS-160466）および高宕山（2004.5.2 CBM BS-267205）のみである。

【保護対策】現在の生育状況を調査する必要がある。

【文献】千植誌 2003：290, 284

【写真】2004.5.2 高宕山 木村陽子

（御巫由紀）



## A コヤブマオ イラクサ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | X |
| 2023 | A |

*Boehmeria minor* Satake

【種の特性】大型の多年生草本。ラセータソウとコアカソの交雑に由来する無融合性植物。葉は革質で厚く、卵円形から菱状楕円形。風媒で、重力散布。花期は、8月～9月。林縁に生育する。[H]

【分布】本州。

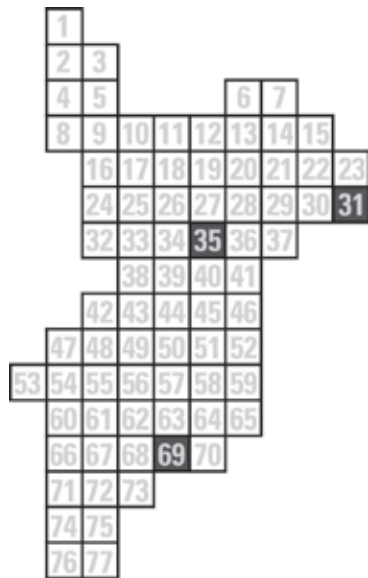
【県内の状況】山武市で1932年9月4日に採集された標本（CBM BS-491）と鴨川市で1951年8月23日に採集された標本（CBM BS-210875）と銚子市で2012年7月22日に採集された標本（CBM BS-330560）がある。

【保護対策】生育地の石垣などを良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:128

【写真】1951.8.23 鴨川市 標本：CBM BS-210875

（天野誠）



## A ツルマオ イラクサ科

*Gonostegia hirta* (Blume ex Hassk.) Miq.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

【種の特性】大型の多年生草本。地面をつる状に這い、高さ 30 から 50cm の枝を立ち上げる。葉は対性に付き、披針形で長さ 3～7 cm。雄花と雌花は混じって、葉腋の球状に付く。虫媒で、重力散布。林縁に生育する。[H]

【分布】本州（西部）・九州・琉球。中国（中南部）、東南アジア、インド。

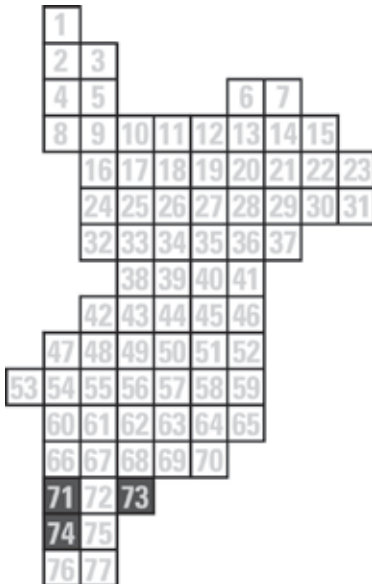
【県内の状況】南房総市で 2007 年 7 月 8 日に採集された標本（CBM BS-361526）の他、同市で採集されている。また館山市で 1968 年 8 月 10 日に採集された標本（CBM BS-331804）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:130/ 改訂新版日本の野生植物 2 2016 351

【写真】2000.2.03 南房総市 標本: CBM BS-163375

(天野誠)



## A サワシバ カバノキ科

*Carpinus cordata* Blume

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】千葉県内で確実な産地は千葉市のみである。

【保護対策】サワシバを含む周辺の樹林を保全する。

【文献】大野啓一 1995 サワシバ千葉市内に産する. 千植誌資料 2 : 5-6./ 千植誌 2003 : 109,107

【写真】1995.5.4 千葉市 標本: CBM BS-85034

(大場達之/天野誠)



## A イヌブナ ブナ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Fagus japonica* Maxim.

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。主として太平洋側のブナ帯下部に見られ、モミ、ブナなど混交林をつくることが多い。低地遺存ブナ帯要素。ツガ群目。[MM]

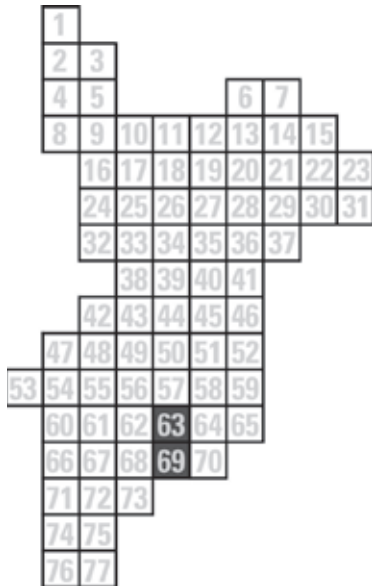
【分布】本州（太平洋側）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系でわずかな個体が発見されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：437／千植誌 2003：110, 108

【写真】2000 東京都 大場達之  
(大場達之／天野誠)



## A ヒメキカシグサ ミソハギ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | X |
| 2023 | A |

*Rotala elatinomorpha* Makino

【種の特性】小型の一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。キカシグサの水の深いところに生えた一型という説もある。しかし、東京大学の標本は栽培したものを標本にしたにもかかわらず本来の形態を保っていることからすると独立種の可能性が高い。湿地に生える。アゼナ群団。[Th]

【分布】本州（千葉）・四国（高知）。

【県内の状況】1902年に高知県と佐倉市のものを基準標本として記載されたが、その後ほかの地域からは採集されていない。基準標本は東京都立大学牧野標本館に収蔵されており、高知県のものが正基準標本に選定されている(MAK-152329)。佐倉市ではその後も採集されている。千葉県植物誌(1958)の巻頭にはヒメキカシグサが図説された。これは前記の採集品に基づいたものであろう。新版千葉県植物誌(1975)に「牧野富太郎博士、Sep.10、1953、佐倉市に採集、typeの一つ」とあるが採集されたのは1895年である。

【保護対策】生育地周辺の詳細調査により発見できる可能性がある。発見されなくても埋土種子として残っている可能性があるので裸地を新しく作るなどして、再生を促すことも考えられる。

【文献】牧野富太郎 1910 植物学雑誌 100-101／渡辺清彦 1958 千植誌 1958：9／新千植誌 1975：394／千植誌 2003：392, 388／平凡社版 日本の野生植物 II pl.238にあるヒメキカシグサの写真はヒメミソハギなので注意が必要である

【写真】1961 印旛沼 東京都立大学牧野標本館所属標本  
(大場達之／天野誠)



## A オオアカバナ アカバナ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | A |

*Epilobium hirsutum* L. var. *villosum* (Thunb.) Hausskn. ex H.Hara

【種の特性】 大型の多年生草本で茎は直立し高さ 1.5m 近くになる。地下茎を長くのびし、しばしば群生する。茎や葉は軟毛を密生する。花期は 6～8 月。花弁は長さ 10～20mm の紅紫色で大きく目立つ。柱頭は 4 裂で開出する。国内分布は中部～東北に稀とされてきたが、2019 年には横浜市の谷戸にある放棄水田で新たに生育が確認された（佐々木・和田 2020）[H]

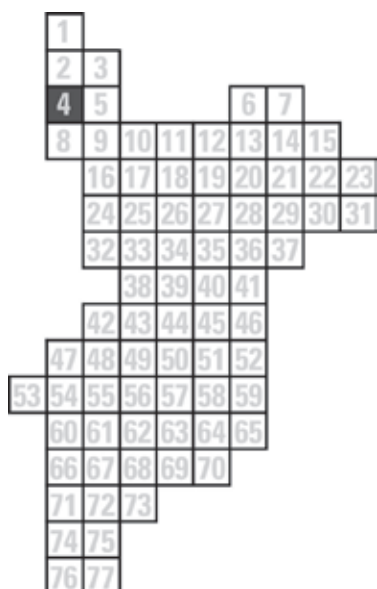
【分布】 本州（中部以北）。ユーラシア～アフリカ北部の温帯。

【県内の状況】 2020 年に野田市の休耕田で新たに生育が確認された。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。開発、除草剤の使用などは控える。また遷移の進行による草原化にも留意が必要。類似する生育環境を精査することで新たな産地が発見される可能性がある。

【文献】 佐々木・和田 2020

【写真】 2020.8.2 野田市 岩槻秀明  
(岩槻秀明)



## A ハマアカザ ヒユ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Atriplex subcordata* Kitag.

【種の特性】 中型の一年生草本。葉は互生に着き、下部の葉は披針形で、上部の葉は三角形で厚い。果実は菱形で幅 5 mm。風媒で、重力散布。花期は、8 月～10 月。海岸の砂地に生育する。オカヒジキ群綱。[Th] 九州。朝鮮、中国。

【分布】 北海道・本州。朝鮮、千島列島、サハリン。

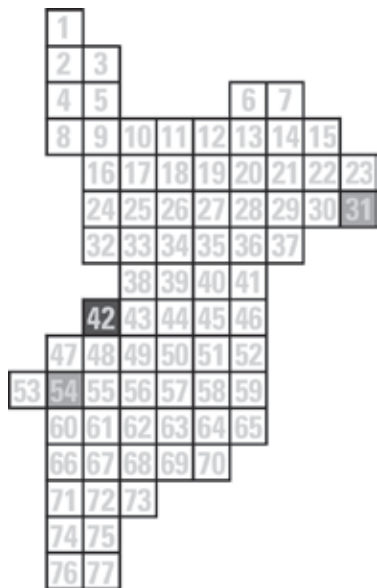
【県内の状況】 富津市で、1951 年 9 月 6 日に採集された標本（CBM BS-191510）と銚子市で 1959 年 7 月 12 日に採集された標本（CBM BS-10049）と袖ヶ浦市で、1995 年 10 月 25 日に採集された標本（CBM BS-143883）がある。

【保護対策】 生育地の砂泥地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:384 / 新千植誌 75:429 / 千植誌 2003:168

【写真】 1959.7.12 銚子市 標本：CBM BS-10049

(天野誠)



## A カワラアカザ ヒユ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | A |

*Chenopodium virgatum* Thunb.

【種の特性】 中型の一年性草本。高さ 20 ～ 60cm。茎は直立する。葉は、長楕円形で長さ 15 ～ 30mm。花序はほぼ分枝しない。花序の軸に白い毛がある。風媒で、重力散布。花期は、7 月～ 10 月。川原や砂浜に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】 富津市で、1999 年 10 月 6 日に採集された標本（CBM BS-184370）と南房総市で、1999 年 7 月 4 日に採集された標本（CBM BS-185992）と柏市で、1997 年 9 月 6 日に採集された標本（CBM BS-128170）がある。新千植誌 75 では、マルバアカザと同種として、市川市、柏市、船橋市、銚子市、長生村、一宮町、館山市に記録がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい

【文献】 千植誌 1958:385 / 新千植誌 1975:429  
／千植誌 2003 166 / 改訂新版日本の野生植物  
3 2017 138

【写真】 1999.7.4 南房総市 標本: CBM BS-185992

(天野誠)



## A オオヤマフスマ ナデシコ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

【種の特性】 高さ 8 ～ 15 cm の夏緑の小型多年生草本。北方の乾いた芝地や明るい夏緑林の林床に生える。数本の茎を立て、基部で枝分かれする。茎は円筒形で十字対生。葉は楕円形で、鈍頭、基部は楔形で、無柄、長さ 8 ～ 18 mm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は 5 数性で、萼片は楕円形、鈍頭、長さ 2 ～ 2.5 mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、白色で、長さ 5 ～ 6 mm。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。県内では北総に点在する。

【県内の状況】 銚子市（1933.6.1 CBM BS-269）に分布することは古くからよく知られているが、野田市（1981.4.29 CBM BS-139236）、千葉市などの内陸部でも報告されている。

【保護対策】 自生地の草地を保全することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975: 425 / 土屋守 1999 野田市の植物（1）: 千生物誌 50(1): 14

【写真】 1933.6.1 銚子市 標本: CBM BS-1269

(天野 誠)



## A ヒナワチガイソウ ナデシコ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax var. *linearifolia* (Takeda) Nemoto

【種の特性】 高さ 7～12 cm の夏緑の小型多年生草本。明るい夏緑林に生える。肥大して紡錘形の根を 1～3 本つける。茎は単生、葉は対生。葉は狭楕円形から線形で、鋭頭、基部は楔形で、無柄、長さ 3～5 cm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は 5 数性で、萼片は披針形、鋭頭、長さ 2～2.5 mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、白色で、長さ 5～6 mm。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。ワチガイソウに似て葉が細い。夏緑林に生える。[G] 低地遺存ブナ帯要素。

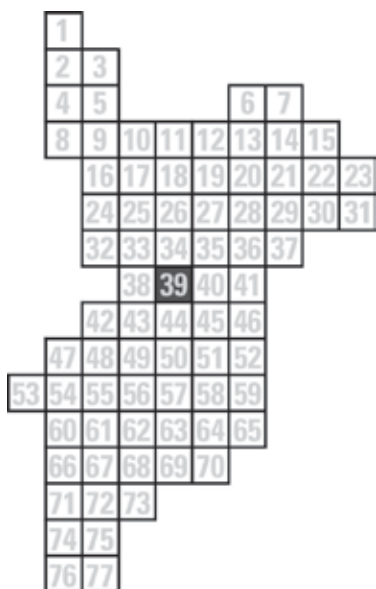
【分布】 本州・四国。従来は茨城県、東京都から知られていたが、千葉県のほか高知県、京都府、静岡県、山梨県、埼玉県などにもヒナワチガイソウに相当するものがあるという（善養寺・天野 1995）。

【県内の状況】 千葉市の雑木林で採集された（1993.05.01 CBM BS-77693）。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 檜山庫三 1965 武蔵野の植物 45 / 善養寺聡彦・天野誠 1995 千葉県新産のヒナワチガイソウの分布と生育環境。千葉県立中央博物館研究報告 3(2) : 165-166. / 千植誌 2003 : 156,174

【写真】 2003. 千葉市 平田和弘（大場達之／天野 誠追補）



## A イトハコベ ナデシコ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Stellaria filicaulis* Makino

【種の特性】 高さ 25～50 cm の夏緑の多年生草本。大きな河の氾濫原に生える。オギなどの茂みに他の草によりかかって生える。茎は無毛、ほぼ直立する。葉は線形で、鋭尖頭、対生する。ほぼ無柄。葉は全縁で、無毛。花は初夏に咲く。花は上部の葉腋に単生する。花柄は長く 5 cm に達することがある。花は 5 数性で、萼片は披針形で、鋭尖頭、白膜の縁取りがある。花弁は、倒披針形で深く 2 裂する。白色で、長さ約 6 mm。雄しべの数は 10 本のことが多い。果実は蒴果で、楕円球。虫媒で風散布。ヨシ群網。[H]。

【分布】 本州（東北、関東）。朝鮮、中国。

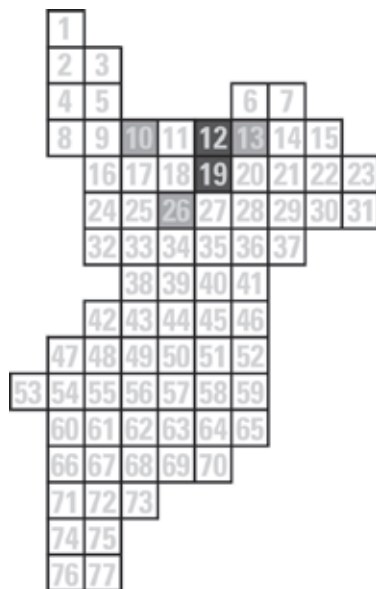
【県内の状況】 利根川沿岸及び印旛沼畔に古くから知られていたが近年は全く報告がない。絶滅した可能性が高い。現在多古光湿原に自生が知られている。

【保護対策】 利根川上流の渡良瀬遊水池に自生が知られており、利根川流域の自然的な氾濫原の植生を保全することによって自然的な再定着が期待できる。

【文献】 篠崎信四郎 1929 東京植物同好会の下総手賀沼採集行。植物研究雑誌 6 : 362-366 / 新千植誌 1975 : 427 では、7ヶ所の産地を挙げ、「普通」としている。 / 千植誌 2003 : 155,173

【写真】 1939.6. 佐倉市 標本 : CBM BS-131975

（大場達之／天野 誠 追補）



## A シロバナナガバノイシモチソウ モウセンゴケ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Drosera indica* L.f. *albiflora* Makino

【種の特性】食虫性の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。花の赤いナガバノイシモチソウは伊勢湾沿岸などに見られるが、千葉県にあるものはすべてシロバナである。ホシクサ・コイヌノハナヒゲ群団。[Th]

【分布】本州、九州。花の赤いナガバノイシモチソウは伊勢湾沿岸などに見られるが、千葉県にあるものはすべてシロバナである。熱帯アジア、オーストラリア、アフリカ。

【県内の状況】1880年8月に長生村で採集したものがシロバナナガバノイシモチソウの日本での初記録である（TI および TNS-48314）。その後1897年に一宮町で採集され、山武市、大網白里市、匝瑳市、茂原市、東金市などで記録されたが、現在確実な産地は成東・東金食虫植物群落と長生村の2地点のみである。後者は工業団地の造成地に埋土種子集

団から発生したもので、開発により失われる運命にある。また東京湾側では富津市で1965年に確認されているが、環境の変化により絶滅した。従って現在安定した生育地は成東・東金食虫植物群落のみである。かつての生育地には埋土種子が残されていると考えられ、生育地を再生させることは可能である。

【保護対策】湿地環境を良好に維持し、観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】小宮定志・柴田千晶 1994 総説ナガバノイシモチソウ・日本歯科大学紀要（一般教育系）23：125-155／千植誌 2003：220, 223（ナガバノイシモチソウとして）

【写真】1988 山武市 谷城勝弘

（大場達之／天野誠）



## A ウナギツカミ タデ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Persicaria aestiva* Ohki

【種の特性】中型の一年生草本。高さ40～90cm。茎は斜上し、上部で分枝する。茎には逆棘がある。葉は、矢尻形。花序は頭状花序。虫媒で、重力散布。花期は、5月～7月。湿地に生育する。[Th]

【分布】北海道・本州。千島列島（南部）、朝鮮、中国、ヒマラヤ、シベリア、ロシア（極東）。

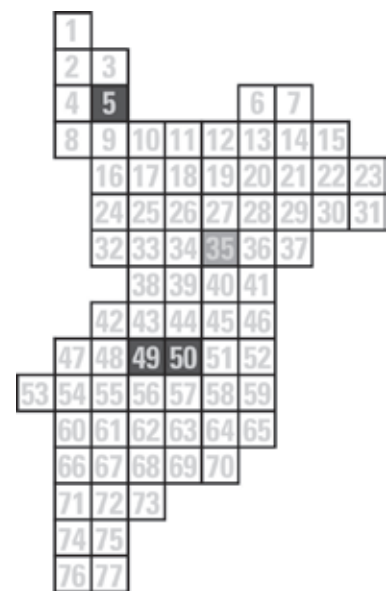
【県内の状況】山武市で1934年5月31日に採集された標本（CBM BS-379455）と長南町で1960年に採集された標本（CBM BS-143450）と野田市で1998年6月21日、1999年5月30日、（CBM BS-164811、CBM BS-262911）に採集された標本と木更津で2018年6月6日に採集された標本（CBM BS-408119）がある。他に船橋市、成田市、山武市、市川市に記録がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 144

【写真】2018.6.6 木更津市 標本：CBM BS-408119

（天野誠）



## A シラカワタデ タデ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | A |

*Persicaria maculosa* Gray subsp. *hirticaulis* (Danser) S.Ekman & Knutsson var. *amblyophylla* (H.Hara) Yonek.

【種の特性】大型の一年生草本で、肥沃や農耕地などに生え、近縁種のオオイヌタデやハルタデなどと混生すること多い。ハルタデの変種とされ、葉が倒卵状長楕円形で先端が急に凸端となり、その特徴的な葉形から、母種とは容易に識別できる。またハルタデ（オオハルタデ含む）に比べるより大型で、生育の良い個体は茎の高さが1.5～2mにも達する。分布がきわめて特異的で、国内の既知の産地は栃木、福島、宮城の3県のみであった。和名は発見地の福島県白河市にちなむ。シロザ群綱 [Th]

【分布】本州（東北地方南部～関東）。朝鮮。

【県内の状況】2018年野田市で生育が確認された（標本情報）。複数の休耕地で群生しているほか、周辺の路傍などにも少数散見される。今回野田市の産地が新たに発見されたことで、分布の南限を更新したものと考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。適度な草刈りは必要だが、除草剤の使用はなるべく控える。

【文献】改訂新版日本の野生植物 4 2017 97 / 2018 レッドデータブック とちぎ 2018

【写真】2019.6.6 野田市 岩槻秀明  
(岩槻秀明)



## A ノダイオウ タデ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Rumex longifolia* DC.

【種の特性】大型の多年生草本。茎は、60～170cm。下部の茎葉は、三角状卵形で柄がある。長卵形から卵形、低鋸歯がある。翼状萼片の縁は低鋸縁か全縁、中脈にこぶはない。風媒で、重力散布。花期は、6月から8月。湿地に生育する。[H]

【分布】北海道、本州。

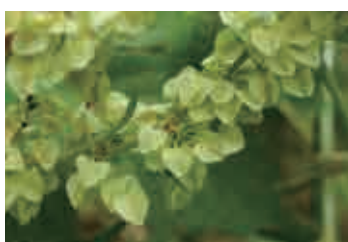
【県内の状況】野田市で2012年5月25日に確認している。

【保護対策】生育地の湿地林を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植資料 2 8 2013 273,274 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016 263

【写真】2021.6.12 野田市 岩槻秀明

(天野誠)



## A コアジサイ アジサイ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Hydrangea hirta* (Thunb.) Siebold

【種の特性】 高さ約 1～2 m の夏緑の小型低木。山地の湿った夏緑林の林床に生える。数本の有髄の幹を叢生する。茎は円筒形で十字対生。樹皮は細かく縦に裂ける。葉は楕円形で、鋭頭、大きな鋭鋸歯がある。基部は楔形で、有柄、葉身は長さ 3.5～7.5 cm。枝先に密な複散房花序を付ける。装飾花はない。花は 5 数性で、萼片は卵形で、鋭頭、長さ約 0.5 mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、薄紫色で、長さ約 1.5 mm。雄しべは長さ約 2.5 mm で、よく目立つ。雌しべは 3 心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱 [N]

【分布】 本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】 長生村（1965.7.25 CBM BS-226890）と船橋市（2001.5.30 CBM BS-181179）の標本があり、柏市に記録がある。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：258, 265

【写真】 1985 神奈川県 大場達之  
(大場達之/天野 誠  
追補)



## A ヒトツバイチャクソウ ツツジ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Pyrola japonica* Klenze var. *subaphylla* (Maxim.) H.Andres

【種の特性】 小型の多年生草本。葉はないか、小さいものが一枚。全体が赤みがかかることが多い。虫媒で、風散布。花期は、6月～7月。林床のやや湿った所に生育する。[G]

【分布】 北海道・本州

【県内の状況】 大多喜町で、1996年6月13日に採集された標本（CBM BS-119579）と一宮町で、1999年6月10日に採集された標本（CBM BS-161359）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：430

【写真】 1996.6.13 大多喜町 標本：CBM  
BS-119579

(天野誠)



## A マルバノイチヤクソウ ツツジ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Pyrola nephrophylla* (Andres) Andres

【種の特性】 小形の常緑多年生草本。地下茎は地中を横走，根生葉はロゼット状に集まり，偏円形で長さ1.5～3.5 cm，幅1.5～3.5 cm。花は5～7月。花茎は高さ10～15 cmで，白色の花を下向きに4～7花をつける。虫媒で風散布。(H)。主にブナ帯のやや乾いた夏緑林，モミ林の林床に生える。低地ブナ帯遺存要素と考えられる。

【分布】 北海道・本州・四国・九州，南千島。

【県内の状況】 八街市と茂原市から記録があり，最近では君津市で1995年6月7日に採集されている（CBM BS-152903）。

【保護対策】 生育環境である乾き気味の林を計画的に保全する。

【文献】 千植誌 1958：44，pl.8:64 図／千植誌 2003：430，418

【写真】 1984 長野県 大場達之（大場達之／天野誠）



最重要保護  
A

## A バイカツツジ ツツジ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Rhododendron semibarbatum* Maxim.

【種の特性】 夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ブナ帯の乾いた夏緑林や夏緑・針葉混交林に生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】 北海道（南部）・本州・四国・九州。

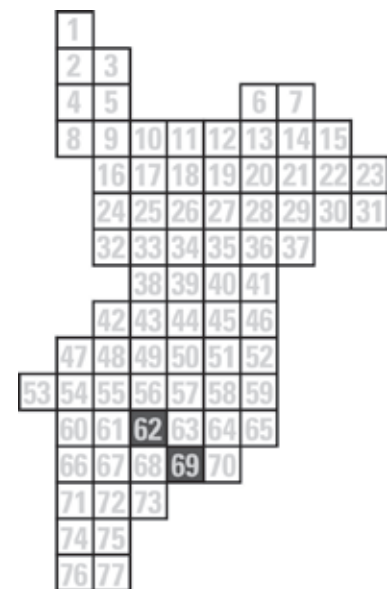
【県内の状況】 清澄山・三石山付近で採集されているが少ない。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】 Yamazaki, T. 1996 A revision of the Genus *Rhododendron* in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin. p.29-31. / 千植誌 2003：432，419

【写真】 1990.5 千葉市栽培  
大場達之

（大場達之／天野誠）



## A コカモメヅル キョウチクトウ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Tylophora floribunda* Miq.

【種の特性】多年生つる草本。葉は単葉で対生し卵心形。花は7～8月に咲き、紅紫色で花弁の上面に細かな毛が多い。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】流山市と横芝光町から確認されている希な植物である。

【保護対策】生育地の環境の改変を防ぐ。

【文献】千植誌 2003：464, 455 / 木村陽子・蓮見和子 2004 千葉県で再発見されたコカモメヅル. 千資料 20：149-150

【写真】2004. 流山市  
木村陽子  
(大場達之／天野誠)



## B キヌタソウ アカネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Galium kinuta* Nakai & H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で輪生。虫媒で重力散布。明るい疎林の林縁などに生える。

【分布】本州・四国。中国。

【県内の状況】柏市、市川市、船橋市、鎌ヶ谷市など県北西部から確認されているが近年の確認報告はない。既知生育地ではいずれも市街化が著しく、生育地の多くは失われた可能性が高い。

【保護対策】生育地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：466, 459

【写真】1988.8.11 滋賀県 石川和宏  
(大場達之／谷城勝弘 追補)



## A オククルマムグラ アカネ科

*Galium trifloriforme* Komar.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】小型の多年生草本。茎はやや斜上するか直立する。分果には、長毛が生える。虫媒で、重力散布。花期は、6月～7月。溪流脇のやや湿った所に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国（東北部）、千島列島（南部）、サハリン。

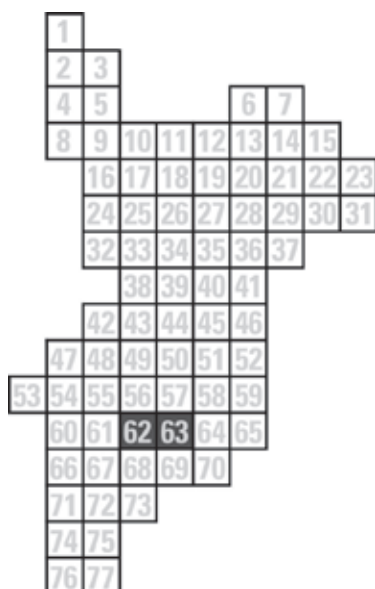
【県内の状況】鴨川市で、2010年5月26日に採集された標本（CBM BS-298050）のみである。君津市、堂沢林道でも目視されている。個体数はいずれも十株以下である。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌資料 2012 268

【写真】1995.5.28 宮城県 CBM BS-99190

(天野誠)



## A オオハシカグサ アカネ科

*Neanotis hirsuta* (L.f.) W.H.Lewis var. *glabra* (Honda) H.Hara

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】一年生草本。林縁や路傍などのやや湿った半日陰地に生える。ハシカグサの変種で、萼筒が無毛。ハシカグサに比べると全体的に大きく、地を這いながら節々から発根する。茎はやや多汁質でやわらかく折れやすい。葉はほぼ無毛で光沢がある。[Th]

【分布】本州（東北、中部の日本海側）。

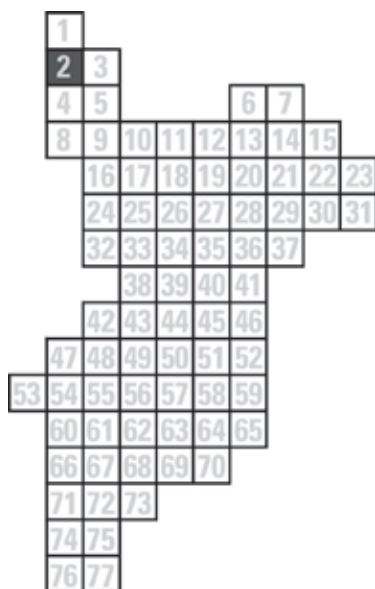
【県内の状況】野田市に点々と生育が見られる。谷津林縁の水路べりやあぜなどに自生するものの、いずれも個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。適度な草刈りは必要だが、除草剤の使用はなるべく控える。

【文献】岩槻秀明. 2009 野田市でオオハシカグサ発見. 千植資料 25 : 245-246

【写真】2019.9.30 野田市 岩槻秀明

(岩槻秀明)



## A ヤマトグサ アカネ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

*Theligonum japonicum* Okubo & Makino

【種の特性】 小形の多年生草本で高さ 10 ～ 25 cm。茎に下向きの毛をつける毛条がある。葉は単葉で対生し卵形。花は 4 ～ 6 月。雌雄異花で、雄花は花被片 3 個、雄しべは 20 ～ 25 個で長い柄で垂れ下がる。雌花は小形で葉腋につく。風媒で重力散布。シオジーハルニレ群目。[H]

【分布】 本州・四国・九州。

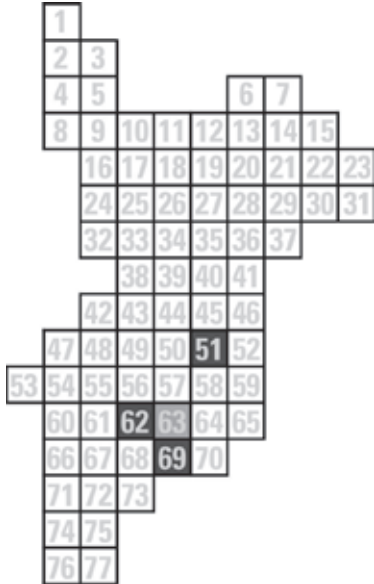
【県内の状況】 暗い湿った林の下に生え、清澄山周辺に見られたが、現在は草食獣の食害のため確認できない。

【保護対策】 草食獣の頭数を適正にコントロールする。

【文献】 千植誌 2003：406, 401

【写真】 1998. 清澄山 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A ハグロソウ キツネノマゴ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

*Peristrophe japonica* (Thunb.) Bremek.

【種の特性】 多年生草本。林床に群れて生える。葉は単葉で対生。花は 7 ～ 10 月に咲き紅紫色で、花被の上下の 2 裂片が目立つ。虫媒で自力散布。日陰の林縁。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国。

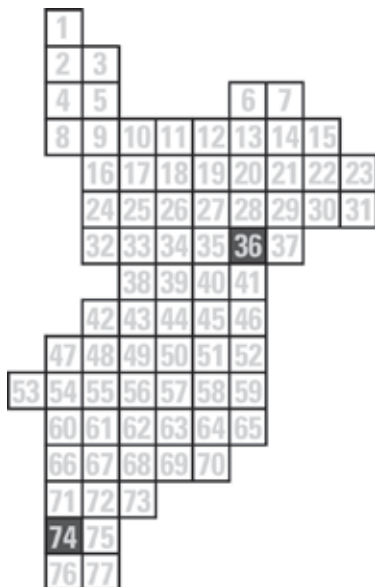
【県内の状況】 山武市などのスギ植林中に見られるが少ない。館山市からの報告もある。

【保護対策】 目立った花をつけるので、観賞用などの採集を防止する。

【文献】 千植誌 2003：542, 531

【写真】 1999.8.29 山武市 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A イワタバコ イワタバコ科

*Conandron ramondoides* Siebold & Zucc.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は楕円形で、1枚か2枚。葉が狭卵形、基部は丸く、左右相称。葉の裏に毛がない。葉腋から花茎を出し、2から20個の花を付ける。花冠は直径1.5cmで5裂する。花期は、7月～8月。虫媒で、風散布。湿った崖に生育する。[H]

【分布】 本州・四国・九州

【県内の状況】 南房総市で2009年6月11日に採集された標本（CBM BS-301767）と同市で2009年7月7日に採集された標本（CBM BS-287203）と鴨川市で1997年5月11日（CBM BS-140927）に採集された標本と南房総市で1996年11月10日に採集された標本（CBM BS-109342）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 325 / 新千植誌 1975 371 / 千植誌 2013 543 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 68

【写真】 2009.6.11 南房総市 標本: CBM BS-287203

(天野誠)



## A カワミドリ シソ科

*Agastache rugosa* (Fisch. & C.A.Mey.) Kuntze

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】 中型の多年生草本。全体に芳香がある。茎は高さ40～100cm、断面は四角い。葉は広卵形から卵心形。穂は頂生、花冠は紅紫色で、下唇は3裂する。虫媒で、重力散布。花期は、8月～10月。林縁に生育する。[H]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 千葉市で、2009年9月23日に採集された標本（CBM BS-282801）と野田市で、2008年9月13日に採集された標本（CBM BS-302297）がある。

【保護対策】 生育地の草地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 367 / 新千植誌 1975 409 / 千植誌 2003 309 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016 299

【写真】 2009.9.23 千葉市 標本: CBM BS-282801

(天野誠)



## A ヤマクルマバナ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

*Clinopodium chinense* (Benth.) Kuntze subsp. *glabrescens* (Nakai) H.Hara

【種の特性】 中型の多年性草本。茎は高さ 20～80cm、断面は四角い。葉は卵形から狭卵形。輪散花序で、花は密集する。花冠は、クルマバナより小さく長さ 6～8mm で、淡紅紫色。で、下唇の中央裂片は幅より長さが短い。虫媒で、重力散布。花期は、8月～9月。林縁に生育する。[H]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。

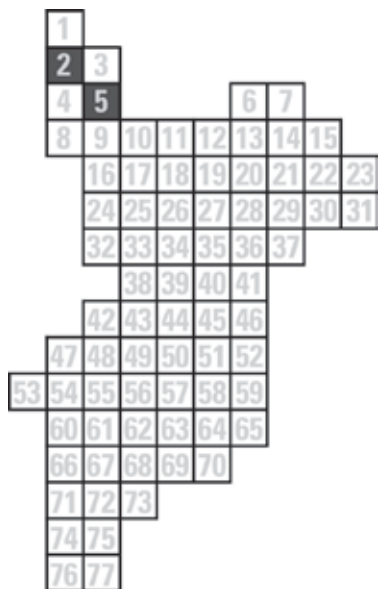
【県内の状況】 野田市で 2009 年 4 月 18 日に、同市で 2009 年 7 月 11 日に、同市で 2010 年 4 月 3 日に確認している。

【保護対策】 生育地の河川敷を良好に維持することが望ましい。

【文献】 木村陽子・岩槻秀明 2010 千植誌資料 26 259 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 131

【写真】 2012.7.18 野田市 岩槻秀明

(天野誠)



## A ミヤマトウバナ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Clinopodium sachalinense* (F.Schm.) Koidz.

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 30～50cm。茎は根茎から斜上してから直立する。葉は、長楕円形で長さ 30～50mm、裏の腺点は目立たない。萼には短毛がわずかに生える。虫媒で、重力散布。花期は、9月～10月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州。千島列島（南部）、サハリン。

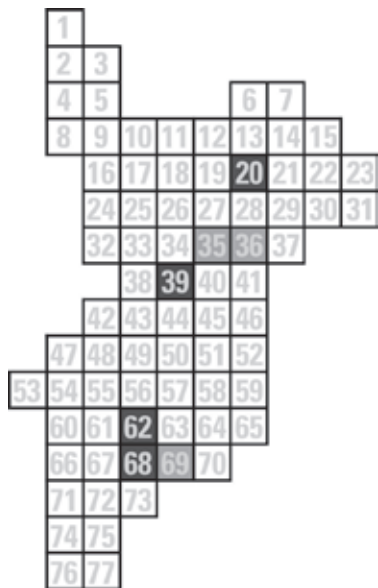
【県内の状況】 鴨川市で 1937 年 8 月 15 日に採集された標本（CBM BS-178791）と君津市で 1990 年 9 月 11 日に採集された標本（CBM BS-384920）と同市で 1993 年 10 月 21 日に採集された標本（CBM BS-109520）と多古町で 1997 年 9 月 24 日に採集された標本（CBM BS-125970）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 331 / 新千植誌 1975 376 / 千植誌 2003 505 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 133

【写真】 1997.9.24 多古町 標本：CBM BS-125970

(天野誠)



## A マネキグサ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Lamium ambiguum* (Makino) Ohwi

【種の特性】 多年生草本。湿った夏緑林あるいはスギ植林などに生える。葉は単葉で対生。花は濃紅紫色で白く縁取られている。虫媒で重力散布。[H]

【分布】 本州（千葉県以西）・四国・九州。

【県内の状況】 高宕山系から知られている。三浦半島南部にも分布するので、それと一連の産地であろう。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：508, 511

【写真】 1974 三浦半島 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A ラショウモンカズラ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | C |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Meehania urticifolia* (Miq.) Makino

【種の特性】 多年生草本。地表に匍匐枝を長く伸ばす。葉は単葉で対生鋸歯がある。花茎は直立し高さ 10～20 cm。花は 5～6 月に咲く虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。オニシモツケーオオヨモギ群目。[H]

【分布】 北海道・本州・四国。

【県内の状況】 野田市の山林で 1995 年に発見され、2008 年には鎌ヶ谷市、2013 年には佐倉市でも記録された。

【保護対策】 自生地の環境を保全する。

【文献】 岩槻秀明 2006 千葉県のラショウモンカズラ. 千植誌資料 21：180

【写真】 2013.4.16 佐倉市 標本: CBM BS-315732

(大場達之／天野誠)



## A シラゲヒメジソ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Mosla hirta* H.Hara

【種の特 性】 小～中形の一年生草本。茎は高さ 20 ～ 50 cm。葉は単葉で対生。ヒメジソに似ているが、1 茎と葉の表面に長い軟毛があり、鋸歯の数が多い傾向がある。虫媒で重力散布。[Th]

【分 布】 本州・九州。朝鮮南部、台湾。

【県内の状況】 房総丘陵でわずかな採集例がある。館山市の記録もあるが詳細な採集地は明らかでない。

【保護対策】 半日陰の林縁に生えるものと考えられるが、その生育環境の条件を調査する必要がある。

【文献】 千植誌 1958 : 333. / 新千植誌 1975 : 378 / 千植誌 2003 : 501, 497

【写真】 1962.9.17 君津市 標本 : CBM BS-12048

(大場達之/天野誠)



## A トウゴクシソバタツナミソウ シソ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Scutellaria abbreviata* H.Hara

【種の特 性】 小型の多年生草本。茎は高さ 3 ～ 20 cm、開出する毛があり、上向き、または下向きの毛が混じる。葉は茎の中部より上で最も大きい。花冠は基部ではほぼ直角に曲がる。虫媒で、重力散布。花期は、5 月～ 6 月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

【分 布】 本州。

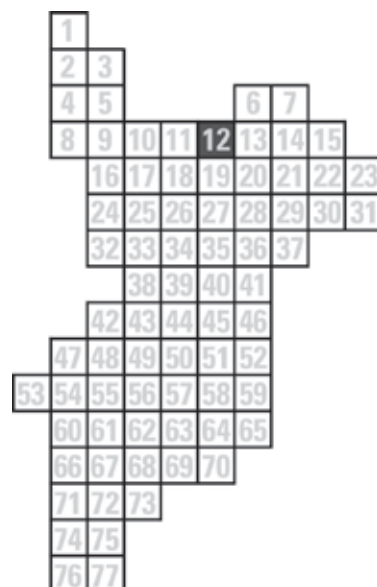
【県内の状況】 成田市で、2002 年 6 月 1 日に採集された標本 (CBM BS-191750) がある。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 改訂新版日本の野生植物 5 2017 118

【写真】 2002.6.1 成田市 標本 : CBM BS-191750

(天野誠)



## A イガタツナミソウ シソ科

*Scutellaria kurokawae* H.Hara

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | B |
| 2023 | A |

【種の特性】小型の多年生草本。茎は高さ 10～30cm、開出する毛がある。節間は普通、葉よりも長い。葉裏は紫色を帯びる。花冠は基部でほぼ直角に曲がる。花はまばら。虫媒で、重力散布。花期は、5月～6月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

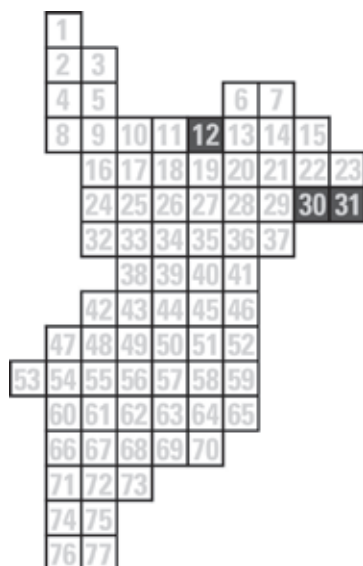
【分布】本州・四国。

【県内の状況】成田市で、2003年5月31日に採集された標本（CBM BS-229525）と銚子市で、2003年5月18日に採集された標本（CBM BS-306390）と銚子市で、2013年6月6日に採集された標本（CBM BS-336519）がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 491 / 日本の野生植物 3 1981 77

【写真】2009.5.26 成田市 谷城勝弘



(天野誠)



## A デワノタツナミソウ シソ科

*Scutellaria muramatsui* H.Hara

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】小型の多年生草本。高さ 20～30cm。茎には下向きの短い毛がある。葉は、三角状卵形で長さ 15～35mm、4～8の丸い鋸歯がある。花冠の唇弁に紫の斑点がない。虫媒で、重力散布。花期は、5月～6月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

【分布】本州

【県内の状況】長生村で 1966 年 5 月 4 日と 6 月 4 日に採集された標本（CBM BS-227310, CBM BS-227319）と市原市で 1999 年 6 月 24 日に採集された標本（CBM BS-208893）と同市で 2000 年 6 月 5 日に採集された標本（CBM BS-276750）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】改訂新版日本の野生植物 5 2017 118

【写真】1966.5.4 長生村 標本: CBM BS-227310

(天野誠)



|               |      |   |
|---------------|------|---|
| A ノタヌキモ タヌキモ科 | 2009 | B |
|               | 2017 | A |
|               | 2023 | A |

*Utricularia aurea* Lour.

【種の特性】浮遊性の一年生草本。葉は羽状複葉で互生し、立体的に羽状に分裂し筆状になる。花は夏、花茎に鱗片葉はなく、花柄は花のあと肥厚し垂れ下がる。虫媒で水散布。タヌキモと混同されることが多い。[Th] ウキクサ群綱。かつては水田の水路などに多く見られた。

【分布】本州・四国。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

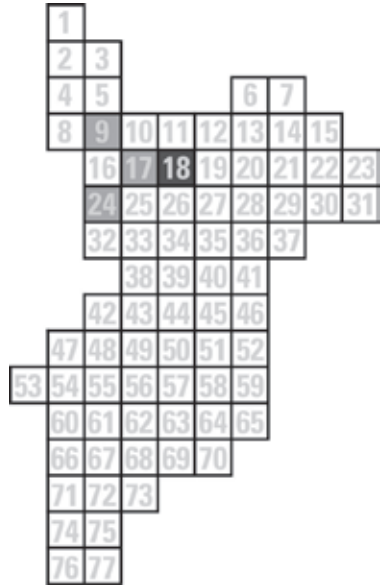
【県内の状況】手賀沼、印旛沼、市川市、流山市などで記録され、最新記録年は1961年、現状は不明で絶滅している可能性が高い。

【保護対策】低地において水田の排水から切り離された淡水水面を確保することが重要である。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 196-197 / 千植誌 2003 : 545, 549

【写真】1952.9.29 三重県桑名郡 標本 : CBM BS-137748

(大場達之/天野誠)



|                  |      |   |
|------------------|------|---|
| A チョウシタヌキモ タヌキモ科 | 2009 |   |
|                  | 2017 | A |
|                  | 2023 | A |

*Utricularia australis* R.Br. f. *fixa* Komiya & C.Shibata

【種の特性】小型の多年性草本。浮遊性で、根を持たない。長さ50cmに達する。葉は細かく分かれ、捕虫囊を付ける。花茎は10cm程度。花数1〜5個。夏に箒状の殖芽を付ける。虫媒で、重力散布。花期は、9月。湿地に生育する。[HH]

【分布】本州

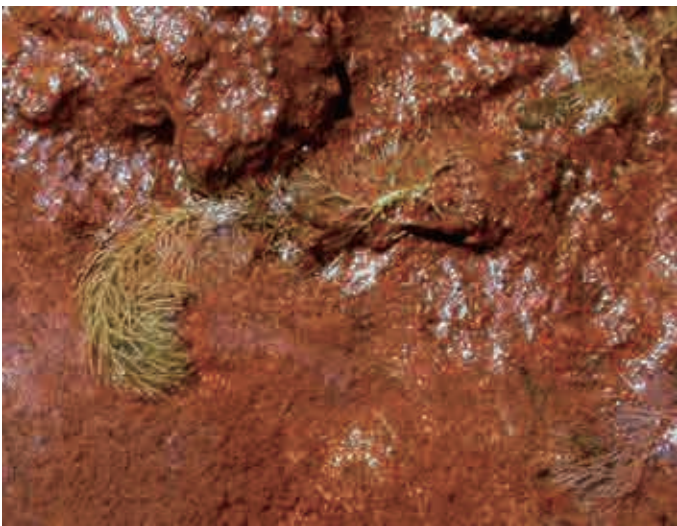
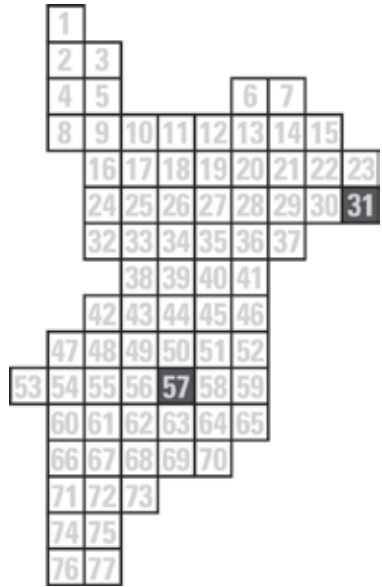
【県内の状況】銚子市で1989年9月17日に採集された標本(CBM BS-110642)と市原市で1992年9月23日(CBM BS-345674)に採集された標本と同市で1992年9月9日に採集された標本(CBM BS-353372)と大多喜町で2005年6月16日に採集された標本(CBM BS-269652)がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 546

【写真】2010.9.11 銚子市 谷城勝弘

(天野誠)



# A ママコナ ハマウツボ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | B |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonicum* Franch. & Sav.

【種の特性】一年生草本。少し乾いた二次林に生え、アカマツ林などの酸性土壌に見られることが多い。高さ 10～25 cm ほど。葉は単葉で対生。花は紅紫色。虫媒で風散布。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

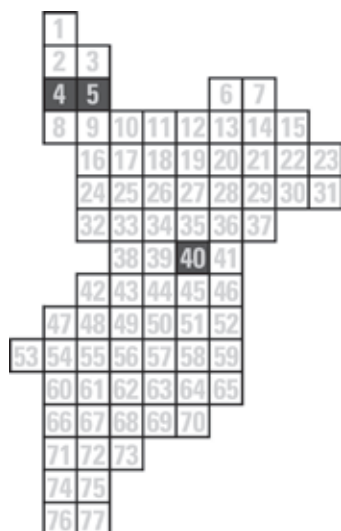
【県内の状況】野田市、市川市、大網白里市などの報告があるが、千葉県立中央博物館で確認できる標本はすべて野田市で採集されたものである。野田市で 1996 年 6 月 25 日に採集された標本がもっとも最近における記録である。

【保護対策】半寄生の一年草で、貧栄養に傾いた、やや明るい林を好むので、林床の落ち葉かきなどが行われなくなった現在では、生育に好適な環境の維持が難しい。里山公園のような持続的に林床が管理できるような林を保持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：537, 527

【写真】2005.7.10 野田市 岩槻秀明

(大場達之／天野誠)



# A ハマウツボ ハマウツボ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Orobanche coerulescens* Stephan

【種の特性】寄生・無葉緑性の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。砂浜のカワラヨモギの根に寄生する。内陸の草地に生えるものをオカウツボ f. *nipponica* Kitam. といい、花序などの毛が少ないというのが中間形が多く区別は難しい。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、アムール、ウスリー、シベリア、東ヨーロッパ。

【県内の状況】かつては東京湾沿岸から九十九里にかけての砂浜に多く見られたが、埋め立て、道路建設による砂浜の縮小、砂質の変化などによりハマヨモギが生えるような砂丘後背地の環境が失われ、激減している。現在確認できるのは館山市、銚子市などにすぎない。

【保護対策】砂浜の多年生植物群落の発達するゾーン、特にネコノシターケカモノハシ群集より後背部の植生を保護することが望ましい。九十九里などでは道路建設、クロマツ植栽によってハマウツボの生育環境が失われている。自然の海岸植生を再現することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：371. / 千植誌 2003：532, 543

【写真】1998.5.9 館山市 山井廣

(大場達之／天野誠)



## A オカウツボ ハマウツボ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Orobanche coeulescens* Stephan f. *nipponica* (Makino) Kitam.

【種の特性】 寄生・無葉緑性の一年生草本。オトコヨモギに寄生する。ハマウツボより、毛が少ない。葉は単葉で互生。虫媒で、重力散布。花期は、5月から6月。乾いた草地に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 山武市で採集された標本（CBM BS-25624）と成田市で1932年5月29日に採集された標本（CBM BS-734）と旭市で1937年6月27日に採集された標本（CBM BS-183791）と銚子市で2012年6月18日に採集された標本（CBM BS-331407）と千葉市で2008年5月30日に採集された標本（CBM BS-295266）がある。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:326 / 新千植誌 1975:371 / 千植誌 2003:544 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:156

【写真】 2012.6.18 銚子市 標本: CBM BS-331407

(天野誠)



## A キヨスミウツボ ハマウツボ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | X |
| 2017 | X |
| 2023 | A |

*Phacellanthus tubiflorus* Siebold & Zucc.

【種の特性】 寄生・無葉緑性の多年生草本。虫媒で重力散布。タマアジサイなどの根に寄生する。茎は叢生し5〜6月に白い花を咲かせる。フサザクラ・タマアジサイ群集。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、ロシア極東部。

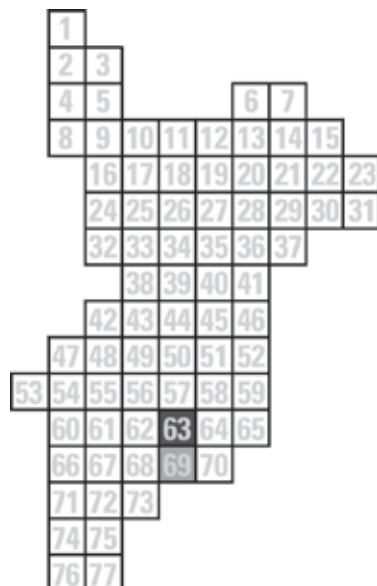
【県内の状況】 1882年に清澄山で採集された標本が東京大学に収蔵されている。これをもとにキヨスミウツボと命名した。湿った谷筋のタマアジサイの根元に生える。千葉県植物誌（1958）に採集記録が見られる。最近市原市で発見された。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 津山尚 1947 東亜産キヨスミウツボ属に就いて。植物研究雑誌 21(712): 131-136 / 中西収・小林禧樹・黒崎史平 2006 キヨスミウツボの生活 .108pp. 兵庫県植物誌研究会

【写真】 1986 神奈川県 大場達之

(大場達之/天野誠 追補)



## A スズメノハコベ ハエドクソウ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Microcarpaea minim* (K.D.Koenig ex Retz.) Merr.

【種の特性】 小型の一年生草本。茎は分岐し、無毛。葉は、無柄で広線形から狭楕円形。花は、一節に一個、萼は5枚、花冠は長さ2mmで、萼と同長。虫媒で、重力散布。花期は、7月～10月。水田や湿地に生育する。アゼナ群団。  
[Th]

【分布】 本州、四国、九州。

【県内の状況】 芝山町で1996年11月5日に採集された標本（CBM BS-122418）と、東金市で2002年10月22日に採集された標本（CBM BS-194546）がある。

【保護対策】 水田雑草なので、生育地で除草剤を使わないようにする。

【文献】 千植誌 1958 327 / 新千植誌 1975 373  
／千植誌 2003 534 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 146

【写真】 1996.11.5 芝山町  
標本：CBM BS-172418



(天野誠)



最重要保護  
A

## A オオアブノメ オオバコ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 | A |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Gratiola japonica* Miq.

【種の特性】 一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。高さ10～20cmで葉腋に柄のない花を付ける。水田及び湿地に生える。アゼナ群団。[Th]

【県内の状況】 本州・九州。朝鮮、アムール、ウスリー。

【保護対策】 水田に生えるが昔から普通な植物ではなく、限られたところにのみ見られる。本種に限らず水田に生える一年草の保護は難しい。

【文献】 千葉県自然環境保全学術調査報告書 1987. / 千植誌 2003 : 530,541

【写真】 2020.6.7 野田市 岩槻秀明

(大場達之／天野誠)



|              |      |   |
|--------------|------|---|
| A ウンラン オオバコ科 | 2009 | B |
|              | 2017 | B |
|              | 2023 | A |

【種の特性】多年生草本。高さ5～15cmほどで、砂浜に匍匐して広がる。葉は単葉で対生、粉白色を帯びている。花は単黄色で唇弁はオレンジ色。茨城県以北の砂浜には普通で、千葉県は太平洋岸における南限にあたる。虫媒で風散布。コウボウムギ群団。[G]

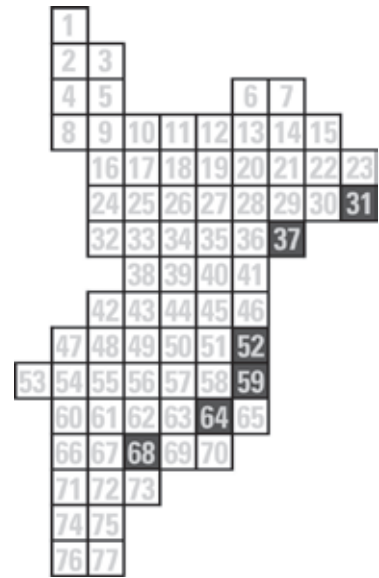
【分布】北海道・本州・四国。朝鮮、中国、サハリン、千島、ウスリー。

【県内の状況】海流で北方から由来する種類で、銚子市に記録が多く、ついで九十九里浜に点々と記録があり、御宿町からも記録がある。

【保護対策】自然的な砂浜のうち、コウボウムギ群落の中や、その周辺に生える植物なので、自然的な砂浜を保ち、海岸前線から内陸に至る植生構造を、本来あるべき動的安定状態に保つことが必要である。千葉県では自然分布の南限であり、海況などにより群落の消長が激しいが、それが自然分布の状態であるから、故意にウンランだけの個体数を増加させるような人為的干渉はつつしむべきである。

【文献】千植誌 2003：535, 526

【写真】2013 銚子市 谷城勝弘  
(大場達之／天野誠)



|                |      |   |
|----------------|------|---|
| A ヒメトラノオ オオバコ科 | 2009 | B |
|                | 2017 | A |
|                | 2023 | A |

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。[H] トダシバーススキ群団。

【分布】本州・四国・九州。

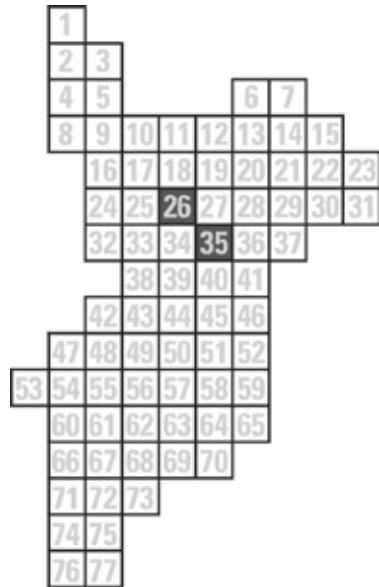
【県内の状況】北部のススキ草原に知られていたがススキ草原の衰退に伴い減少している。

【保護対策】かつての牧と同様なススキ草原を、里山公園、自然公園のような形で維持することが望ましい。稀少な種だけを分類園風に植えるのは賛成できない。

【文献】千植誌 2003：535, 525

【写真】1980 長野県 大場達之

(大場達之／天野誠)



# A イスミスズカケ オオバコ科

*Veronicastrum noguchii* K.Uehara, K.Saiki & T.Ando

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

【種の特性】多年生草本。溪谷の崖に生え、茎は下垂し、長さ70cmほど、茎の先端は新苗となる。葉は単葉で互生し、枝とともに冬を越して春に枯れる。葉裏はしばしば紅紫色を帯びる。枝は葉柄とともに開出した褐色の毛がある。虫媒で風散布と考えられるが、千葉県では結実が確認されていない。花は7月、葉腋に一個づつの円錐状の短い花序をつける。花冠青紫色で基部は管状で内面に白毛がある。花冠の先端は短く4裂し、開出。雄しべは4本。花柱はやや桃色を帯びる。[N]

【分布】本州（千葉県）

【県内の状況】いすみ市のみに生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。希少なので、生育地を明らかにせず、盗掘を防ぐ必要がある。

【文献】Uehara,k, K.Saiki & T.Ando 2013 *Veroniczstrum noguchii* (sect. *Plagiostachys*, *Plataginaceae*), a new species from Jaapan. *Acta Phytot. Geobot.* 63: 64-69 / 上原浩一・斎木健一 2014. 千葉県の生物多様性センター研究報告 7: 79-90

【写真】2013.07.11 いすみ市 木村陽子

(大場達之/天野 誠 追補)



# A キタミソウ ゴマノハグサ科

*Limosella aquatica* L.

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 |   |
| 2023 | A |

【種の特性】小型の一年生草本。茎の高さはのびてもせいぜい5cmほどで、葉は根生状につく。長い葉柄の先に細長いへら状の葉をつける。葉の長さは葉柄部も含め1.5～5cm。葉のわきに直径2～3mmの星形の花を咲かせる。花色は白色だがときにやや赤みを帯びることもある。減水裸地の泥地に生える。県内の個体群は、季節に関係なく減水裸地が生じたタイミングで発生し、花期も不定である。種子は微細であり、水流や渡り鳥によって分布が拡散していると推定される。そのため今後も新たな産地が見つかる可能性がある。タウコギ群綱 [Th]

【分布】北海道、本州、九州。北半球の温帯～寒帯に広く分布。

【県内の状況】利根川、江戸川河川敷では、減水裸地となっている場所で散発的に見出され、一部大きな群落となっているところもある。2020年には利根川河川敷にて新たな生育が確認された。

【保護対策】利根川および江戸川の河道近くの減水裸地および、調整池の環境を良好に維持することが好ましい。調整池については現状が保たれる限り、個体群も維持され则认为られるが、外来種の繁茂等、植生環境の変化には留意が必要。

【文献】伊藤彩乃・小幡和男・岩槻秀明・上條隆志 2019 千葉県および茨城県におけるキタミソウ（ゴマノハグサ科）の新産地 茨城県自然博物館 22:45-49

【写真】2022.11.28 野田市 岩槻秀明

(岩槻秀明)



## A シマクサギ クマツヅラ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Clerodendrum izuinsulare* K.Inoue, M.Haseg. & S.Kobay.

【種の特性】落葉性低木。高さ2から3m。葉は対生、毛は少ない。花冠裂片は短く長さ8から10mm、雄蕊は花冠から0.5から1.5cmとやや短く超出する。虫媒で、鳥散布。花期は、10月。林縁に生育する。[M]

【分布】本州

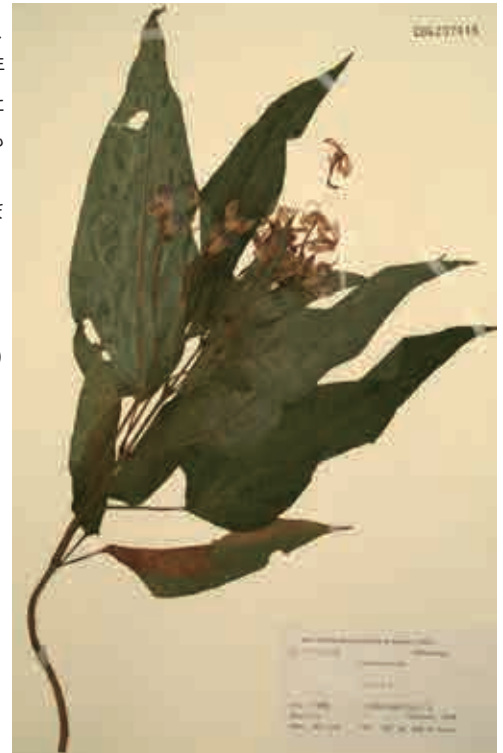
【県内の状況】千葉市で、2002年10月8日に採集された標本（CBM BS-207945）と同市で、2002年10月8日に採集された標本（CBM BS-207944）がある。また、館山市で、2008年9月3日に採集された標本（CBM BS-281893）と同市で、2007年8月27日に採集された標本（CBM BS-287420）がある。道端に生育しているので、伐採の恐れがあり、個体数も

少ないので、存続が危ぶまれる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 486

【写真】2002.10.8 千葉市 標本：CBM BS-207945  
(天野誠)



## A マメダオシ ヒルガオ科

|      |   |
|------|---|
| 2009 |   |
| 2017 | A |
| 2023 | A |

*Cuscuta australis* R.Br.

【種の特性】寄生・つる性の一年生草本。茎は、ネナシカズラより細く、1mm。花は頭状に付く。花柱は2本。虫媒で、重力散布。花期は、7月～10月。日当たりの良い草原や海岸に生育する。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア。

【県内の状況】香取市で1996年10月30日に採集された標本（CBM BS-282916）と富津市で1977年8月4日に採集された標本（CBM BS-236774）と船橋市で1973年9月30日に採集された標本（CBM BS-284071）と千葉市で1971年10月5日に採集された標本（CBM BS-182780）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:336 / 新千植誌 1975:381 / 千植誌 2003:478 / 改訂新版 日本の野生植物 5 2017 26

【写真】1973.9.30 船橋市 標本：CBM BS-284072

(天野誠)

